

2024年度 履修の手引

保健医療学部



デジタルブックの便利な機能について

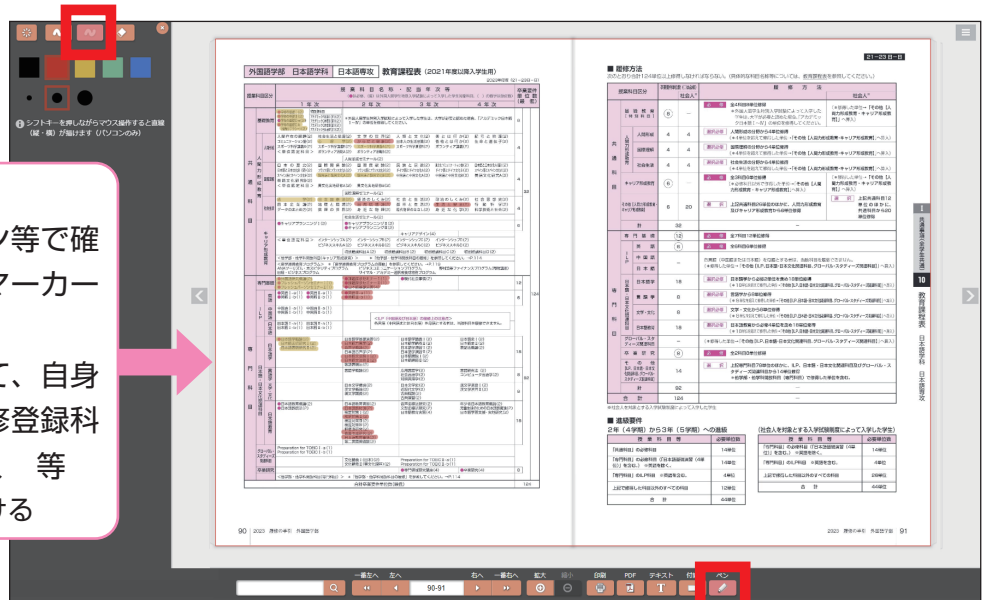
手書き機能

使用例)
オリエンテーション等で確認
した重要事項をメモする 等



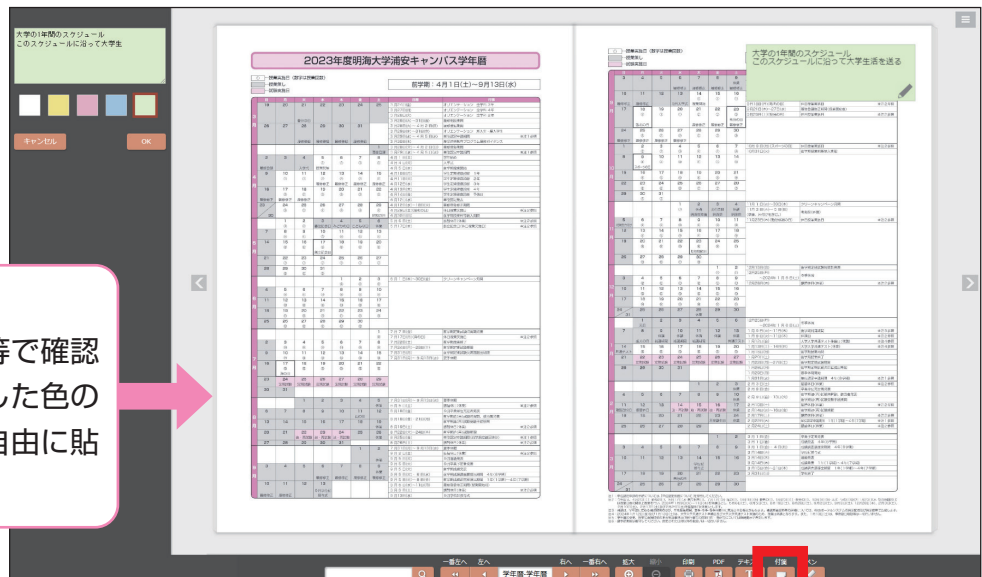
マーカー機能

使用例)
・オリエンテーション等で確
認した重要事項をマーカー
する
・教育課程表において、自身
の既修得科目や履修登録科
目にマーカーを引く 等
※直線は PC 版のみ引ける

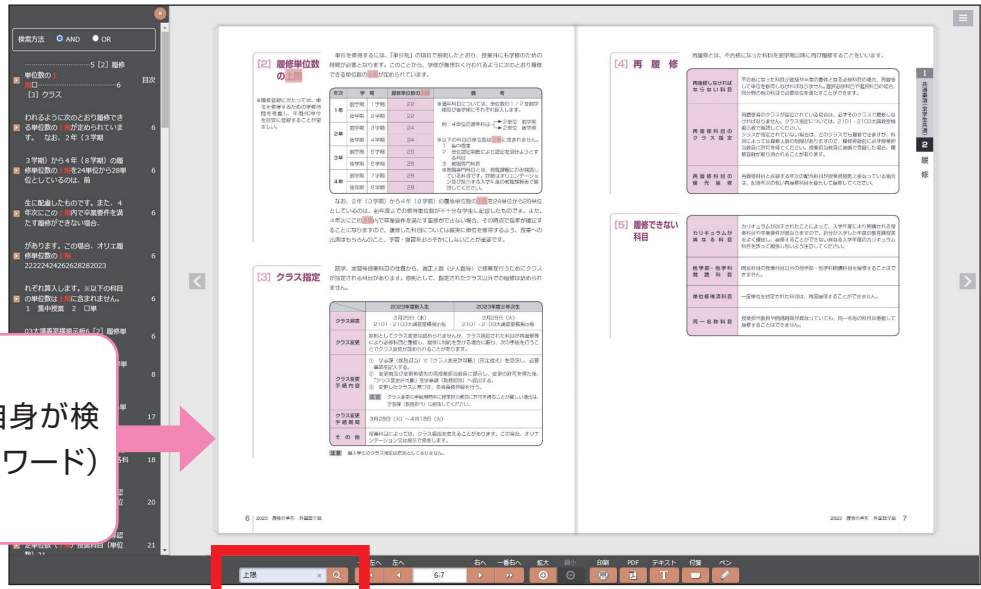


付箋機能

使用例)
オリエンテーション等で確認
した重要事項を選択した色の
付箋にメモを記入し自由に貼
り付ける

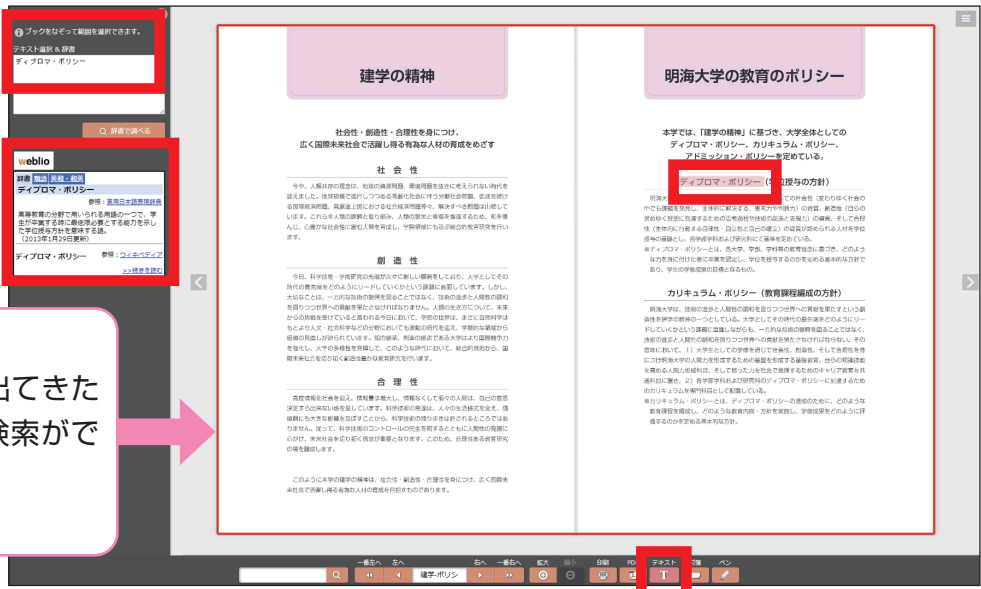


ワード検索機能



使用例)
履修の手引の中で、自身が検索したい事項を単語（ワード）で検索する

辞書検索機能



使用例)
意味が不明な用語が出てきた場合にその場で辞書検索ができる
※ PC 版のみ使用可能

デジタルブックはスマートフォンでも利用できます
基本的な機能はPC版と同等のものが使用できますが、一部機能はPC版のみとなります。

【スマートフォン画面】



注意 「履修の手引」に書き込む、マーカーを引く、付箋を貼る等の作業を行った場合、その情報が保存されるのは同じデバイス（PC、スマートフォン、タブレット等）、かつ、同じブラウザ（Microsoft Edge、Mozilla Firefox、Chrome、Safari等）で開く場合のみですので注意してください。

はじめに

大学における学修が中学校や高等学校と異なるのは、自らが自らの責任において毎年の学修計画を立て、卒業に必要な単位を満たしていくという点にあります。

この『履修の手引』は、受講する科目の選択・登録から試験・単位の修得、さらには進級・卒業等の重要な手続や要件を、学則や関係する諸規程等に基づいて編集したものです。

毎年、『履修の手引』や掲示の見落とし、誤った解釈等による履修手続の不備や期限遅れが原因で、受講したい科目が受けられなくなるばかりか、進級・卒業できずに留年するような事態が起きています。こうした事態を未然に防ぐためにも、『履修の手引』を機会あるごとに参照して正しい認識の下に各自で学修計画を立ててください。もし不明なところがある場合は、自己流の解釈をせず、学事課（教務担当）に相談し、解決するように努めてください。

なお、『履修の手引』の記載内容が変更された場合は、掲示でお知らせしますので、見落としのないように注意してください。

『履修の手引』の構成について

各ページにある
インデックスを
利用すると
掲載項目が一目で
分かります。

I

共通事項（全学生共通）

1

授
業

I 共通事項（全学生共通）

全学生を対象とした項目です。

ただし、項目によっては、入学年度別に掲載されている箇所がありますので、注意してください。

II 編入学生特記事項

編入学生を対象とした項目です。

編入学生のみを対象とした制度等について掲載されています。

授 業

1

履 修

2

試験・成績

3

単位認定制度

4

学 籍

5

その他

6

教務事務

7

教育課程の構成

8

進級・卒業

9

教育課程表

10

編

※各項目の詳細は次のページの
目次を参照してください。

目次

2024年度学年暦／建学の精神／明海大学の教育のポリシー／三つのポリシー／学部長メッセージ／学部概要

I 共通事項

1 授業

1 授業	1
[1]学 期	1
[2]授業時間	1
[3]授業の出席	1
[4]授業の欠席	2
[5]休 講	3
[6]補 講	3
2 授業科目	3
[1]開 講 期	3
[2]配 当 年 次	3
[3]授業科目の種類	3
3 単位制	4
[1]単位制とは	4
[2]単位を修得するための学修時間	4
[3]各授業科目の単位数	4
[4]単位の認定	4

2 履修

1 履修のルール	6
[1]履修登録とは	6
[2]履修単位数の上限	7
[3]クラス指定	7
[4]再 履 修	7
[5]履修できない科目	7
2 履修登録方法	8

3 試験・成績

1 試 験	10
[1]試験の種類	10
[2]定期試験の欠席	11
[3]試験日程・受験手続	11
[4]試 験 時 間	12
[5]受験資格・受験上の注意 (学年暦に定められた期間に行われる試験)	12
2 成 績	13
[1]成績評価・成績表記	13
[2]GPA(成績平均点数制)	14
[3]成 績 発 表	15
[4]成 績 調 査	15

4 単位認定制度

1 単位認定制度について	16
2 既修得単位認定制度の内容及び申請方法等	16

5 学 籍

1 修業年限と在学期間	19
2 学籍の異動	20
[1]休 学	20
[2]復 学	21
[3]退 学	21
[4]除 籍	21
[5]復 籍	21
[6]転 学 部	21

6 その他

1 明海多言語コミュニケーションコモンズ(MLACC)	22
2 コンピュータ・コンサルティング・サロン(CCS)	22

7 教務事務

1 証 明 書	23
2 事務取扱時間	24
3 問い合わせ	24
4 学生への連絡	25
[1]Webポータルシステムによる掲示配信	25
[2]掲示板の場所と掲示内容	25
5 メールアカウントの付与	25
6 シラバス	26
7 manaba	27
8 学修ポートフォリオ	27
9 交通機関の運休又は自然災害等による休講措置	27

8 教育課程の構成

1 授業科目の構成	28
2 専 門 科 目	30
3 履修モデル	31
4 履 修 条 件	33
5 クラス担任制	35
6 社会福祉主事について	35
7 カリキュラムマップ(履修系統図)	36

9 進級・卒業

1 進 級	38
[1]進級要件	38
[2]進級発表	39
2 卒 業	40
[1]卒業要件	40
[2]卒業単位充足者・卒業予定者発表	40
[3]学 位	40
3 年次(学期)別基準単位数	41

10 教育課程表

教育課程表	45
-------	----

II 編入学生特記事項

1 修業年限と在学期間	51	4 卒業要件	53
2 2年間の学修計画	51	5 その他	53
3 既修得単位の認定	51	[1]クラス指定	53
[1]単位認定	51	[2]修得(認定)済科目の履修	53
[2]個別認定(α)	51	6 教育課程表(編入学生用)	54

2024年度明海大学浦安キャンパス学年暦

- ①…授業実施日 (数字は授業回数)
- …授業無し
- …試験実施日
- …休日授業実施日

前学期：4月1日(月)～9月13日(金)

月	日							日程	行事
	日	月	火	水	木	金	土		
3月	17	18	19	20	21	22	23	3月25日(月)	オリエンテーション 全学科 3年
				春分の日				3月26日(火)	オリエンテーション 全学科 4年
	24	25	26	27	28	29	30	3月27日(水)	オリエンテーション 全学科 2年
	31 履修登録			履修登録	履修登録	履修登録	履修登録	3月27日(水)～4月2日(火)	履修登録期間・履修相談期間
								3月28日(木)～4月1日(月)	オリエンテーション 新入生・編入学生・学士入学生
4月		1 履修登録	2 履修登録	3	4 入学式	5 ① 授業開始	6 ①	3月28日(木)～4月5日(金)	単位認定申請期間 ※注1参照
								3月27日(水)～4月2日(火)	履修登録期間・履修相談期間
								3月28日(木)～4月1日(月)	オリエンテーション 新入生・編入学生・学士入学生
								3月28日(木)～4月5日(金)	単位認定申請期間 ※注1参照
	7	8 ①	9 ①	10 ①	11 ①	12 ② 履修修正	13 ② 履修修正	4月1日(月)	学年始め
								4月1日(月)	産学連携教育プログラム履修ガイダンス
								4月4日(木)	入学式
								4月5日(金)	前学期授業開始
	14 履修修正	15 ② 履修修正	16 ② 履修修正	17 ② 履修修正	18 ② 履修修正	19 ③	20 ③	4月8日(月)	学生定期健康診断 1年
								4月9日(火)	学生定期健康診断 2年
								4月10日(水)	学生定期健康診断 3年
21	22 ③	23 ③	24 ③	25 ③	26 ④	27 ④	4月11日(木)	学生定期健康診断 4年	
							4月12日(金)	学生定期健康診断 予備日	
							4月12日(金)	単位認定発表	
28	29 ④ 昭和の日	30 ④					4月12日(金)～18日(木)	履修登録修正期間	
							4月29日(月)(昭和の日)	休日授業実施日 ※注2参照	
							4月30日(火)	前学期授業料等納入期限	
							5月17日(金)	創立記念日(休日授業実施日) ※注2参照	
5月				1 ④	2 ④	3 憲法記念日	4 みどりの日		
	5 こどもの日	6 振替休日	7 ⑤	8 ⑤	9 ⑤	10 ⑤	11 ⑤		
	12	13 ⑤	14 ⑥	15 ⑥	16 ⑥	17 ⑥ 創立記念日	18 ⑥		
	19	20 ⑥	21 ⑦	22 ⑦	23 ⑦	24 ⑦	25 ⑦		
	26	27 ⑦	28 ⑧	29 ⑧	30 ⑧	31 ⑧			
6月							1 ⑧	6月1日(土)～30日(日)	クリーンキャンペーン月間
	2	3 ⑧	4 ⑨	5 ⑨	6 ⑨	7 ⑨	8 ⑨		
	9	10 ⑨	11 ⑩	12 ⑩	13 ⑩	14 ⑩	15 ⑩		
	16	17 ⑩	18 ⑪	19 ⑪	20 ⑪	21 ⑪	22 ⑪		
	23 30	24 ⑪	25 ⑫	26 ⑫	27 ⑫	28 ⑫	29 ⑫		
7月		1 ⑫	2 ⑬	3 ⑬	4 ⑬	5 ⑬	6 ⑬	7月5日(金)	前学期定期試験時間割発表
								7月15日(月)(海の日)	休日授業実施日 ※注2参照
	7	8 ⑬	9 ⑭	10 ⑭	11 ⑭	12 ⑭	13 ⑭	7月22日(月)	前学期授業終了
								7月23日(火)・24日(水)	前学期補講期間 ※注3参照
	14	15 ⑭ 海の日	16 ⑮	17 ⑮	18 ⑮	19 ⑮	20 ⑮	7月23日(火)・24日(水)	休講日 ※注2参照
							7月25日(木)～31日(水)	前学期定期試験期間	
21	22 ⑮	23 補講期間	24 補講期間	25 定期試験	26 定期試験	27 定期試験			
28	29 定期試験	30 定期試験	31 定期試験						
8月					1	2	3 休業	8月1日(木)	前学期定期試験欠席届提出期限
								8月1日(木)～9月13日(金)	夏季休暇
	4	5	6	7	8	9	10	8月3日(土)	振替休日(休業) ※注2参照
	11 山の日	12 振替休日	13	14	15	16	17	8月19日(月)	9月卒業単位充定者発表
	18	19	20	21 追(再)試験	22 追(再)試験	23 追(再)試験	24 休業	8月19日(月)・20日(火)	前学期追(再)試験時間割、該当者発表
								前学期追(再)試験受験手続期間	
							8月21日(水)～23日(金)	前学期追(再)試験期間	
25	26	27	28	29	30	31 休業	8月23日(金)	単位認定申請期限(前学期成績反映分) ※注1参照	
							8月24日(土)・31日(土)	振替休日(休業) ※注2参照	
9月	1	2	3	4	5	6	7 休業	8月1日(木)～9月13日(金)	夏季休暇
								9月5日(木)	9月進級発表
								9月5日(木)	9月卒業予定者発表
								9月5日(木)	前学期成績発表
	8 履修修正	9 履修修正	10 履修修正	11 履修修正	12	13 履修修正	履修修正	9月5日(木)・6日(金)	前学期成績調査願提出期間 4年(8学期)
							9月5日(木)～10日(火)	前学期成績調査願提出期間 1年(1学期)～4年(7学期)	
							9月6日(金)～11日(水)	履修登録修正期間(授業開始前)	
							9月7日(土)	振替休日(休業) ※注2参照	
							9月13日(金)	9月卒業式・学位記授与式	

- ①…授業実施日 (数字は授業回数)
- …授業無し
- …試験実施日
- …休日授業実施日

後学期：9月14日(土)～3月31日(月)

		日	月	火	水	木	金	土	日程	行事
9月	1	2	3	4	5	6	7	履修修正	8月1日(木)～9月13日(金) 9月6日(金)～11日(水)	夏季休暇 履修登録修正期間(授業開始前)
	8	9	10	11	12	13	14	履修修正	9月7日(土) 9月9日(月) 9月13日(金)	振替休日(休業) ※注2参照 オリエンテーション(9月進級者・復学者) 9月入学式
	15	16	17	18	19	20	21	履修修正	9月14日(土) 9月16日(月)(敬老の日) 9月20日(金)～26日(木) 9月23日(月)(振替休日)	後学期授業開始 休日授業実施日 ※注2参照 履修登録修正期間(授業開始後) 休日授業実施日 ※注2参照
	22	23	24	25	26	27	28	履修修正		
	29	30								
10月			1	2	3	4	5		10月14日(月)(スポーツの日) 10月31日(木)	休日授業実施日 ※注2参照 後学期授業料等納入期限
	6	7	8	9	10	11	12			
	13	14	15	16	17	18	19			
	20	21	22	23	24	25	26			
	27	28	29	30	31					
11月						1	2		11月1日(金)～30日(土) 11月2日(土)～5日(火) (準備、片付けを含む。)	クリーンキャンペーン月間 明海祭(休講) 休日授業実施日 ※注2参照
	3	4	5	6	7	8	9			
	10	11	12	13	14	15	16			
	17	18	19	20	21	22	23			
	24	25	26	27	28	29	30			
12月	1	2	3	4	5	6	7		12月13日(金) 12月25日(水)	後学期定期試験時間割発表 冬季休暇
	8	9	10	11	12	13	14		～2025年1月7日(火) 12月27日(金)・28日(土)	振替休日(休業) ※注2参照
	15	16	17	18	19	20	21			
	22	23	24	25	26	27	28			
	29	30	31							
1月				1	2	3	4		2024年12月25日(水) ～1月7日(火)	冬季休暇
	5	6	7	8	9	10	11		1月8日(水)・9日(木) 1月8日(水)・9日(木) 1月10日(金)	後学期補講期間 ※注3参照 休講日 ※注2参照 後学期授業再開
	12	13	14	15	16	17	18		1月17日(金) 1月18日(土)・19日(日) 1月20日(月)	大学入学共通テスト準備日(休講) ※注4参照 大学入学共通テスト(休業) ※注4参照 後学期授業終了
	19	20	21	22	23	24	25		1月21日(火)～27日(月) 1月28日(火)	後学期定期試験期間 後学期定期試験欠席届提出期限
	26	27	28	29	30	31			1月28日(火) 1月31日(金)	春季休暇開始 単位認定申請期限 4年(8学期) ※注1参照
2月							1		2月1日(土)・8日(土) 2月12日(水)	振替休日(休業) ※注2参照 卒業単位充足者発表
	2	3	4	5	6	7	8		2月12日(水)・13日(木)	後学期追(再)試験時間割、該当者発表 後学期追(再)試験受験手続期間
	9	10	11	12	13	14	15		2月14日(金)・17日(月)・ 18日(火)	後学期追(再)試験期間
	16	17	18	19	20	21	22		2月15日(土) 2月21日(金)	振替休日(休業) ※注2参照 単位認定申請期限 1年(1学期)～4年(7学期) ※注1参照
	23	24	25	26	27	28			2月22日(土)	振替休日(休業) ※注2参照
3月							1		3月1日(土) 3月3日(月) 3月3日(月)	振替休日(休業) ※注2参照 卒業予定者発表 成績発表 4年(8学期)
	2	3	4	5	6	7	8		3月3日(月)・4日(火) 3月8日(土)	成績調査願提出期間 4年(8学期) ※注2参照
	9	10	11	12	13	14	15		3月8日(土) 3月14日(金)	振替休日(休業) ※注2参照 卒業式・学位記授与式
	16	17	18	19	20	21	22		3月14日(金) 3月17日(月)～21日(金)	進級発表 成績発表 1年(1学期)～4年(7学期)
	23	24	25	26	27	28	29		3月17日(月)～21日(金) 3月31日(月)	成績調査願提出期間 1年(1学期)～4年(7学期) 学年終了

注1：単位認定申請の手続については、「単位認定制度について」を参照してください。
 注2：今年度は、4月29日(月・昭和の日)、5月17日(金・創立記念日)、7月15日(月・海の日)、9月16日(月・敬老の日)、9月23日(月・振替休日)、10月14日(月・スポーツの日)及び11月23日(土・勤労感謝の日)は授業日数の関係上授業を行い、7月23日(火)、7月24日(水)、2025年1月8日(水)及び1月9日(木)を休講日とし、8月3日(土)、8月24日(土)、8月31日(土)、9月7日(土)、12月27日(金)、12月28日(土)、2025年2月1日(土)、2月8日(土)、2月15日(土)、2月22日(土)、3月1日(土)及び3月8日(土)を振替休日(休業)とします。
 注3：補講は、学年暦に定める補講期間のほか、平常授業期間、夏季・冬季・春季休暇中に実施される場合があります。補講実施日時等の詳細については、Webポータルシステムの掲示配信及び掲示板等で告知します。
 注4：2025年1月17日(金)及び1月18日(土)は、大学入学共通テスト準備日及び大学入学共通テスト実施のため、授業は休講となります。また、1月18日(土)は、事務窓口取扱等は一切行いません。
 注5：学年暦の変更、授業に直接関係のある緊急事項及び諸行事等の詳細日程・場所等については随時掲示で告知します。
 注6：諸手続期限は厳守してください。指定された日時以外の取扱いは一切行いません。

建学の精神

社会性・創造性・合理性を身につけ、
広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成をめざす

社会性

今や、人類共存の理念は、地球の資源問題、環境問題を抜きに考えられない時代を迎えました。地球規模で進行しつつある高齢化社会に伴う労働社会問題、低迷を続ける国際経済問題、発展途上国における社会経済問題等々、解決すべき問題は山積しています。これら全人類の課題と取り組み、人類の繁栄と幸福を推進するため、和を重んじ、心豊かな社会性に富む人間を育成し、学際領域にも及ぶ総合的教育研究を行います。

創造性

今日、科学技術・学術研究の先端が次々に新しい展開をしており、大学としてその時代の最先端をどのようにリードしていくかという課題に直面しています。しかし、大切なことは、一方的な技術の振興を図ることではなく、技術の進歩と人間性の調和を図りつつ世界への貢献を果たさなければなりません。人類の生き方について、未来からの挑戦を受けていると言われる今日において、学問の世界は、まさに自然科学はもとより人文・社会科学などの分野においても激動の時代を迎え、学際的な領域から価値の見直しが迫られています。知の継承、創造の拠点である大学はより国際競争力を強化し、大学の多様性を発揮して、このような時代において、総合的見地から、国際未来社会を切り拓く創造性豊かな教育研究を行います。

合理性

高度情報化社会を迎え、情報量は増大し、情報なくして個々の人間は、自己の意思決定すら出来ない感を呈しています。科学技術の発達、人々の生活様式を変え、価値観にも大きな影響を及ぼすことから、科学技術の独り歩きは許されることはありません。従って、科学技術のコントロールの完全を期するとともに人間性の発揚に心がけ、未来社会を切り拓く信念が重要となります。このため、合理性ある教育研究の場を醸成します。

このように本学の建学の精神は、社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成を目指すものであります。

明海大学の教育のポリシー

本学では、「建学の精神」に基づき、大学全体としての
ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、
アドミッション・ポリシーを定めている。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

明海大学は、厳格な成績評価の下、建学の精神にある国際未来社会で活躍するための資質として、社会性（社会に貢献するホスピタリティマインドを持ち、協働に向けて主体的に思考し、的確に判断し、決断できる資質）、創造性（夢に向け熱意を持ち、試行錯誤をし、小さな発見を積み重ね、新たな価値を産みだして的確に表現できる資質）、合理性（知識やスキルを学び、目標達成に向けて多様な情報を収集し、適切に選択して活用できる資質）が認められる人材を学位授与の基礎とし、各学部学科および研究科にて基準を定めている。

※ディプロマ・ポリシーとは、各大学、学部、学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるもの。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

明海大学は、技術の進歩と人間性の調和を図りつつ世界への貢献を果たすという創造性を建学の精神の一つとしている。大学としてその時代の最先端をどのようにリードしていくかという課題に直面しながらも、一方的な技術の振興を図ることではなく、技術の進歩と人間性の調和を図りつつ世界への貢献を果たさなければならない。その意味において、1) 大学生としての学修を通じて社会性、創造性、そして合理性を身につけ明海大学の人間力を形成するための基盤を形成する基礎教育、自らの知識技能を高める人間力形成科目、そして培った力を社会で発揮するためのキャリア教育を共通科目に置き、2) 各学部学科および研究科のディプロマ・ポリシーに到達するためのカリキュラムを専門科目として配置している。

※カリキュラム・ポリシーとは、ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方針を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

明海大学は、建学の精神「社会性・創造性・合理性を身につけ、広く国際未来社会で活躍し得る有為な人材の育成」をめざして、豊かな人間力を基盤とした高度専門職業人養成を含む幅広い職業人養成を教育の目的としている。そのため、入学予定者には、学業、技術・技能、文化、芸術、スポーツなどの分野で活躍した体験を活かし、入学後、本学での学修を通して、これからの国際社会で通用する実力を身につけ、将来、各分野で活躍したいという強い意志を持つ学生を求めている。さらに、生涯学習社会の到来に対し、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、改善していく資質を有する人材の育成を目的として、生涯学習型学修に意欲的に取り組み、自己の更なる確立をめざす者を求めている。

※アドミッション・ポリシーとは、各大学、学部、学科等の教育理念、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学修成果（「学力の3要素」についてどのような成果を求めるのか）を示すもの。

・「学力の3要素」…①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

三つのポリシー

— 保健医療学部口腔保健学科 —

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

「保健医療学部口腔保健学科」では、次の要件を満たした者に「学士（口腔保健学）」の学位を授与する。

- ① 口腔保健にかかる健康増進・医療・福祉に携わることができる知識と技能を有し実践することができる。
- ② 歯科衛生士としての誇りと職業倫理を有し、生涯にわたって国民の健康な生活を確保することができる。
- ③ 医療にかかわる他の職種とも連携して、口腔保健の立場から社会的な貢献ができる。
- ④ 口腔保健の専門職種として国際社会で活躍することができる。
- ⑤ 課題に対して論理的思考力を発揮して解決することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

「広い視野・豊かな感性・国際性」を兼ね備えた、常に変化し続ける社会状況に対応可能な“国際未来社会で活躍し得る歯科衛生士”を養成するため、4年間一貫教育のカリキュラム編成を行っている。

- 1 人間性の陶冶を図るための教養教育を充実し社会人としての基礎力を向上する。
- 2 社会性、創造性、合理性の高揚を図り、国際性を進展させるための科目の充実を図る。
- 3 超高齢社会での口腔保健の実践力を育成するため医学的知識の涵養に加え、摂食嚥下機能や周術期療法にかかる知識と技能の高揚を図る。
- 4 スペシャルニーズに対応できる知識と技能を修得する。
- 5 実習を通じて多職種連携の重要性を理解する。
- 6 臨床および地域保健あるいは地域包括ケアにおいて総合的に活躍できる知識と技能の修得を図る。
- 7 国際性の向上を図るため語学学習を充実する。
- 8 問題解決能力や研究能力の育成を図るための課題研究を充実する。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

口腔保健学を学ぶことに対して強い意欲を持つ次のような人材を求めている。

- 1 口腔保健学の学修に必要な基礎学力を有している人（特に自然科学又は生命科学関連科目を履修していることが望ましい）

対応する入試：【総合型選抜（なりたいじぶん入試）】【学校推薦型選抜（SDGs 高大連携入試）】【一般選抜】【大学入学共通テスト利用選抜】

- 2 医療人として必要なホスピタリティマインドを有している人

- 3 言葉によるコミュニケーション能力に加え、文章による表現力と文章読解力を有している人

対応する入試：【総合型選抜(AO)】【総合型選抜(なりたいじぶん入試)】【総合型選抜(生涯学習型社会人)】【学校推薦型選抜(指定校)】【学校推薦型選抜(SDGs 高大連携入試)】【一般選抜】【大学入学共通テスト利用選抜】

- 4 保健・医療・福祉の分野で自分の能力を発揮したいと願っている人

対応する入試：【総合型選抜(AO)】【総合型選抜(なりたいじぶん入試)】【総合型選抜(生涯学習型社会人)】【学校推薦型選抜(SDGs 高大連携入試)】【一般選抜】【大学入学共通テスト利用選抜】

- 5 口腔保健を通じて、国民の生活の質の向上を図る強い意識を持っている人

対応する入試：【総合型選抜(AO)】【総合型選抜(なりたいじぶん入試)】【学校推薦型選抜(指定校)】【学校推薦型選抜(SDGs 高大連携入試)】

- 6 国際社会で活躍する希望を持っている人

対応する入試：【総合型選抜(AO)】【総合型選抜(なりたいじぶん入試)】【総合型選抜(生涯学習型社会人)】【学校推薦型選抜(指定校)】【学校推薦型選抜(SDGs 高大連携入試)】【一般選抜】【大学入学共通テスト利用選抜】

現代社会のニーズに応える 歯科衛生士を目指して

保健医療学部長 金子 潤

明海大学に晴れて入学された新入生の皆様、この度は本当におめでとうございます。長い人生の中でこれからの大学生としての4年間は、人間形成においてとても大切な時間で、大変有意義なものになると思います。

明海大学は2019年4月に保健医療学部を開設、東日本の私立大学で初の4年制歯科衛生士養成課程「保健医療学部口腔保健学科」をスタートしましたが、これはわが国の現代社会の歯科医療ニーズに応えるものになります。これまでの歯科衛生士は、歯科診療所において歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導の、いわゆる三大業務を行うことが主な役割と捉えられていたと思います。これらは歯科衛生士としての基盤をなす重要な業務ではありますが、近年の超高齢社会や口腔疾患と全身の健康との関わりが解明により、医科歯科連携によるチーム医療の重要性が高まり、その中でも特に歯科衛生士の役割が大きく変わろうとしています。

たとえば、口腔環境の悪化は糖尿病、誤嚥性肺炎、循環器系疾患、認知症など多くの全身疾患のリスクファクターになることが知られています。また、週周期管理としての口腔ケアが手術後の感染性合併症を減少させることも明らかとなっています。このため、地域の歯科診療所だけでなく、病院や医科の診療所、介護施設などにも歯科衛生士の活躍の場が広がっており、社会からのニーズもより質の高いものが要求されてきています。

以上のことを踏まえ、1年次では生物学・化学や医療倫理・心理学などの基礎分野、さらに解剖学、生理学、病理学などの専門基礎分野を中心に学修します。2年次では臨床歯科医学と主要三科の専門分野を学修し、3年次になると臨床歯科医学のほかに学内外における臨床臨地実習が開始されます。4年次では臨床臨地実習と卒業研究に加え、総まとめとしての総合口腔保健学特論が開講されます。このように、4年間で歯科医療に携わるための基礎的・専門的な質の高い知識と技術を修得していただきます。

皆さんが医療人として、さらに一社会人としての第一歩を踏み出すために、これらのことを幅広く総合的に学んで、「現代社会のニーズに応える歯科衛生士」を目指して4年間の大学生活を送っていただけたらと思います。教員一同、皆さんの大学生活を精一杯サポートさせていただきます。

学部概要

超高齢社会、平均寿命の伸長、さらには健康志向の高まりの中において、健康は、「いかに豊かな人生を送るか」というQOL（Quality of Life）の観点から、歯・口腔の健康に対する社会的ニーズはますます増加し、同時に多様化と高度化が求められています。また、近年では、歯・口腔と全身の健康の因果関係が注目されており、国民の健康増進の観点からも歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を担う歯科衛生士の育成が重要になってきています。

歯科衛生士の役割は、今後ますます多様化と高度化が進展すると同時に、これまでの歯科医療現場から医療や介護、福祉、行政などの領域に拡大し、これらに対応する人材の育成は急務重要視されています。

本学部では、このような社会的情勢に応え、国際未来社会で活躍し得る人間性、感性に富む歯科衛生士を育成するため、広く知識を授け、口腔保健分野における学識、技術及び研究能力を培うことを目的としています。

歯科衛生士憲章

私たちは、職業の重要性と社会的使命を強く自覚し、ここに歯科衛生士憲章を制定し、その実践を期するものである。

1. 私たちは国民の歯科衛生を担う者として誇りと責任をもって、社会に貢献する。
1. 私たちは常に地域住民の立場を理解し誠実に業務を遂行する。
1. 私たちは社会の信頼に応えるよう常に人格の形成、知識及び技術の向上に努める。
1. 私たちは関係諸法令を遵守し歯科保健医療の向上に寄与する。
1. 私たちは常に歯科衛生士業務発展のため相互の融和と団結に努める。

I

共通事項

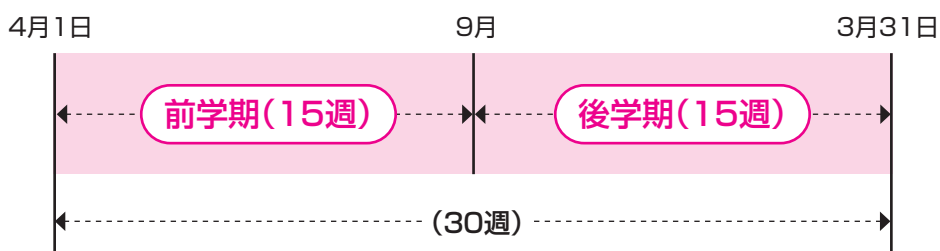
全学生に共通する項目です。

1 授業

1 授業

[1] 学期

1年間は前学期と後学期の2学期で構成され、授業はおおむね前学期が15週、後学期が15週、年間30週にわたり開講されます。ただし、授業科目によっては、前学期と後学期をそれぞれ2つに区切った期間で開講される科目(クォーター科目)があります。



参照→「学年暦」

[2] 授業時間

授業は1時限当たり90分で行われ、原則として、月曜日から金曜日の1時限から5時限となります。

ただし、月曜日から金曜日の6時限及び土曜日の1・2時限に、集中授業、特別授業、補講及び就職等各種ガイダンス等が行われることがあります。

時限	曜日	月	火	水	木	金	土
1		9:00 ~ 10:30					
2		10:40 ~ 12:10					
3		13:00 ~ 14:30					
4		14:40 ~ 16:10					
5		16:20 ~ 17:50					
6		18:00 ~ 19:30					

参照→p.3「補講」

[3] 授業の出席

授業にはすべて出席しなければなりません。

原則として、実授業回数の5分の4以上の出席がなければ試験を受けることができません。

[4] 授業の欠席

やむを得ない事由により授業を欠席する（した）場合、次のとおり手続を行ってください。

※1
「授業欠席届」（所定様式）は学事課（教務担当）で受領してください。

※2
「欠席届（体育クラブ活動）」（所定様式）は学生支援課（学生支援担当）で受領してください。

※3
以下のいずれかに該当する場合の取扱いは、保健管理センターの判断によります。

- ①連続した7日間を超える欠席期間
- ②第3種「その他の感染症」

参照▶P.11
「定期試験の欠席」

※
第3種「その他の感染症」の詳細については、文部科学省HPを参照してください。

欠席の事由	提出書類		提出先	取扱い
	届出書類	添付書類		
父母、祖父母、兄弟、姉妹に不幸があった場合	授業欠席届（所定様式） ※1	会葬礼状等	学事課（教務担当）	次の期間については、欠席の扱いをしません。 父母： 連続した7日間と往復の日数 祖父母、兄弟、姉妹： 連続した5日間と往復の日数
学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症にかかった場合		感染症名、発症日及び治癒までにかかった期間が判断できる診断書		原則、当該期間中は欠席の扱いをしません。 ※3
裁判员等に選任され、裁判所に出向いた場合		裁判所が発行する証明書類		当該期間中は欠席の扱いをしません。
体育会所属クラブと学生会体育会連盟会所属のスポーツ・文化活動特別入学試験指定クラブの学生が公式試合等に参加した場合	欠席届（体育クラブ活動）（所定様式） ※2		学生支援課（学生支援担当）	欠席の扱いをしません。
上記以外の事由 例：病気、ケガ、事故など	欠席事由を証明できるもの		授業担当教員（事務窓口での取扱いは一切行いません。）	授業担当教員の判断によりますので、各自で確認してください。

注意1 欠席した授業の内容は、後日必ず授業担当教員に確認してください。

注意2 授業科目によっては、授業担当教員から出席の代わりに補講や課題（レポート等）が課されることがあります。

注意3 平常授業時に実施される試験の欠席については、欠席の事由を証明する書類を**授業期間内**に授業担当教員に直接提出し、その取扱いについて授業担当教員の指示を受けてください。学事課（教務担当）での取次ぎ等は一切行いません。

注意4 添付書類は原本を提出してください。

なお、原本の返却が必要な場合は、提出時に学事課（教務担当）に申し出てください。

参考：学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症の種類

種別	病名
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルス）、中東呼吸器症候群（MERSコロナウイルス）、特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症、新感染症
第2種	インフルエンザ（特定鳥インフルエンザを除く。）、百日咳、麻しん（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症※

[5] 休 講

参照→『Webポータルシステム利用マニュアル』

参照→p.25「学生への連絡」

やむを得ず授業が休講となることがあります。原則として授業の休講はWebポータルシステムの掲示配信及び掲示板で告知しますので、始業前に必ず確認してください。

なお、休講の掲示配信等がなく、授業開始時刻から30分以上経過しても授業担当教員が出講しない場合は、学事課（教務担当）で指示を受けてください。

[6] 補 講

参照→『Webポータルシステム利用マニュアル』

参照→p.25「学生への連絡」

やむを得ず授業が休講となった場合、補講が実施されます。

また、授業の進捗等により、授業担当教員の判断で補講を実施することがあります。

補講は、学年暦に定める補講期間のほか、平常授業期間、夏季・冬季・春季休暇中に実施される場合もあります。日時等の詳細については、Webポータルシステムの掲示配信及び掲示板で告知します。

2 授業科目

[1] 開講期

授業科目は、開講される期間別に次のとおり分けられます。

クォーター科目 (8週)	前学期と後学期をそれぞれ2つに区切ったいずれかの学期で授業が行われ、成績が評価される科目
セメスター科目 (15週)	前学期又は後学期のいずれかの学期で授業が完結し、成績が評価される科目 注意 セメスター科目には、1週間に1回授業を行う科目と、1週間に2回授業を行う科目の2種類があります。
通年科目 (30週)	前学期と後学期の1年間で授業が完結し、成績が評価される科目
集中科目	ある一定の期間に集中的に授業が行われ、成績が評価される科目

[2] 配当年次

授業科目には、それぞれ配当年次が定められています。これは、各授業科目を系統的に学修するために履修できる年次の配当を定めているものです。

自分の在籍年次より下位の年次に配当されている科目の履修は認められますが、上位の年次に配当されている科目の履修は認められません。

なお、『授業時間割』及び『シラバス』には、配当年次のうち履修可能な最低年次が記載されています。

※同一名称科目でも入学年度によって配当年次が異なる場合があります。履修登録の際は、必ず教育課程表を確認してください。

参照→「教育課程表」

[3] 授業科目の種類

授業科目には、次のとおり3つの種類があります。

科目の種類	定 義
必 修	卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目
選 択 必 修	必修科目以外で特定の分野又は科目の中から所定の単位数を修得しなければならない科目
選 択	必修科目及び選択必修科目以外の科目

3 単位制

[1] 単位制とは

大学における学修は単位制により行われています。単位制とは、所定の授業科目を一定の基準に従い履修（受講）し、試験に合格することで、その科目ごとに定められている単位を修得していく制度をいいます。

[2] 単位を修得するための学修時間

単位の算定は、大学設置基準により、1単位の授業科目を45時間の学修（各自が行う自習時間を含む。）を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業外に必要な学修等を考慮して、各大学において定めるとされています。

本学においては、原則として講義及び演習の科目については15時間の授業と授業外の学修30時間をもって1単位、実験、実習、実技及び外国語の科目については30時間の授業と授業外の学修15時間をもって1単位としており、1単位を修得するための授業時間数と授業外の学修時間数の割合は次のとおりです。

なお、臨地実習については、歯科衛生士養成所指導ガイドラインに基づき、1単位を45時間の実習をもって構成しています。

講義・演習		実験・実習・実技・外国語		臨地実習
授業 15時間	授業外(事前・事後)の学修 30時間	授業 30時間	授業外(事前・事後)の学修 15時間	実習 45時間 1単位
45時間 1単位		45時間 1単位		

単位を修得するためには、授業だけでなく、毎回の授業に対する事前の準備及び事後の展開などの主体的な学びに要する十分な学修時間が必要です。主体的な学修の仕方を身に付けてください。

なお、各授業科目の授業外（事前・事後）の学修内容及び学修目安時間については、『シラバス』等で確認してください。

[3] 各授業科目の単位数

本学における授業の方法・開講期ごとの学修時間数及び単位数は、次のとおりです。

授業の方法	開講期	学 修 時 間 数	単位数
講 義 演 習	クォーター	[2時間(授業)+4時間(授業外)]×8週=48時間	1
	セメスター (週1回)	[2時間(授業)+4時間(授業外)]×15週=90時間	2
	セメスター (週2回)	[4時間(授業)+8時間(授業外)]×15週=180時間	4
	通 年	[2時間(授業)+4時間(授業外)]×30週=180時間	4
実 験 実 習 実 技 外 国 語	セメスター (週1回)	[2時間(授業)+1時間(授業外)]×15週=45時間	1
	セメスター (週2回)	[4時間(授業)+2時間(授業外)]×15週=90時間	2
	通 年	[2時間(授業)+1時間(授業外)]×30週=90時間	2
臨地実習	セメスター	45時間の実習	1

※1 授業（90分）は、2時間として換算します。
 ※2 臨地実習の実習時間は、実時間です。

[4] 単位の認定

履修した科目の単位は、原則として、試験に合格したときに初めて認定されます。試験の方法は、筆記試験、レポート・論文・作品の提出、実技、実習等がありますが、授業科目によっては、平常の成績をもって試験の成績に代えることがあります。

なお、単位の認定に際し、出席数が不足していたり、あるいは途中で受講を放棄したような場合は、その科目の単位は認定されません。

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing a memo.

2 履 修

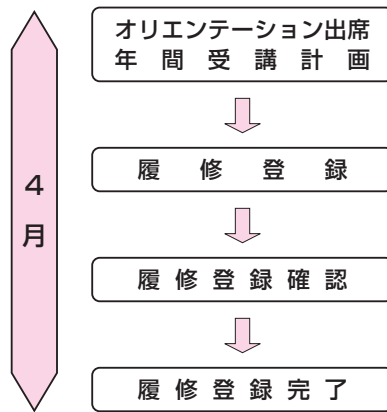
履修とは、各学部・学科で定めている授業科目を一定の規則に従い習い修めることです。

授業科目を履修するに当たっては、進級・卒業要件はもちろんのこと、次に掲げる規則を十分踏まえて、履修計画を立てなければなりません。

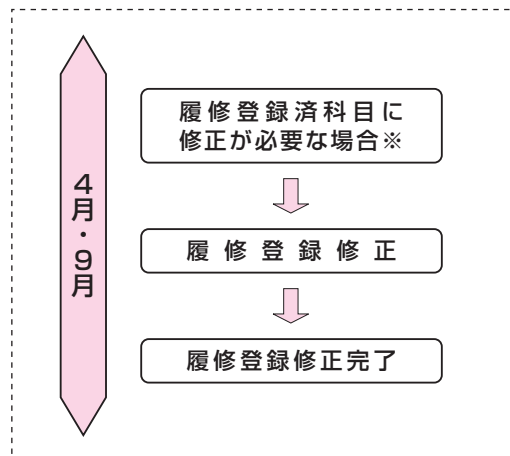
1 履修のルール

[1] 履修登録とは

履修登録とは、学年の始めに年間受講計画を立て、履修するすべての授業科目を登録する手続のことで、その流れはおおむね次のとおりです。



※履修登録修正は、やむを得ず修正が必要な場合のみ行うことができます。



履修登録は、1年間の学修を始めるために欠かすことのできない大学生活で最も重要な手続です。

しかし、履修登録時の単純なミスや、履修登録期間に登録を忘れたことなどが原因で単位を修得できなくなったり、留年するような事態が毎年起きています。

このような事態を未然に防ぐためにも、この『履修の手引』をよく読み、自己の責任において正しい履修登録手続を行ってください。

[2] 履修単位数の上限

単位を修得するには、「単位制」の項目で説明したとおり、授業外にも学修のための時間が必要となります。このことから、学修が無理なく行われるように次のとおり履修できる単位数の上限が定められています。

年次	学 期		履修単位数の上限	備 考
1年	前学期	1学期	22	※通年科目については、単位数の1/2を前学期及び後学期にそれぞれ算入します。 例：4単位の通年科目 $\begin{cases} \rightarrow 2\text{単位} & \text{前学期} \\ \rightarrow 2\text{単位} & \text{後学期} \end{cases}$ ※集中授業は単位数の上限に含まれません。
	後学期	2学期	22	
2年	前学期	3学期	24	
	後学期	4学期	24	
3年	前学期	5学期	26	
	後学期	6学期	26	
4年	前学期	7学期	28	
	後学期	8学期	28	

なお、2年（3学期）から4年（8学期）の履修単位数の上限を24単位から28単位としているのは、前年度までの修得単位数が不十分な学生に配慮したものです。また、4年次にこの上限内で卒業要件を満たす履修ができない場合、その時点で留年が確定することになりますので、履修した科目については確実に単位を修得するよう、授業への出席はもちろんのこと、予習・復習をおろそかにしないことが重要です。

[3] クラス指定

語学、実習等授業科目の性質から、適正人数（少人数等）で授業を行うためにクラスが指定される科目があります。原則として、指定されたクラス以外での履修は認められません。

	2024年度新入生
クラス発表	3月28日（木） 第2講義棟1階掲示板

[4] 再履修

再履修とは、不合格になった科目を翌学期以降に再び履修することをいいます。

[5] 履修できない科目

カリキュラムが異なる科目	カリキュラムが改正されたことによって、入学年度により開講される授業科目や卒業要件が異なりますので、自分が入学した年度の教育課程表をよく確認し、履修することができない異なる入学年度のカリキュラム科目を誤って履修しないよう注意してください。
他学部・他学科開講科目	他学部・他学科に開講されている科目は履修することができません。
単位修得済科目	一度単位を認定された科目は、再度履修することができません。
同一名称科目	授業担当教員や開講時限が異なっても、同一名称の科目は重複して履修することはできません。

2 履修登録方法

履修登録は、Webポータルシステムで行います。詳細については、『Webポータルシステム利用マニュアル』を参照し、正しい登録を行ってください。

(前学期)

1 オリエンテーション・資料配布・時間割組立 3月25日(月)～4月2日(火)

チェックポイント

- (1年生) 自分のクラスを確認する。
- (2～4年生) 前年度の成績表をもとに、教育課程表で修得済及び未修得科目を確認する。
- (2～4年生) 再履修が必要な必修科目がある場合、クラスが指定されていないか掲示等で確認する。
- (1～4年生) 以下の要件等を踏まえて、履修する科目を選択し、4月2日(火)までに時間割を組み立て、巻末の『時間割(控)』を印刷の上、記入する。
 - 進級要件 → P.38参照
 - 卒業要件 → P.40参照
 - 履修単位数の上限 → P.7参照
 - クラス指定 → P.7参照
 - 履修できない科目 → P.7参照

2 履修相談期間 3月27日(水)～4月2日(火)
時間・場所：9:00～17:00
学事課(教務担当)

チェックポイント

- (1～4年生) 相談するときは、『履修の手引』や掲示等をもう一度よく確認し、疑問点を明確にしておくこと。

3 履修登録期間
(Webポータルシステム「履修登録」) 3月27日(水)9:00～4月2日(火)23:59

チェックポイント

- (1～4年生) 1年間分(通年・前学期・後学期)の科目を登録する。
 - * 『Webポータルシステム利用マニュアル』で履修登録方法をよく確認する。
 - * 期間内であれば、何度でも登録・修正可能
 - * 学内・学外から利用可能
- (1年生) あらかじめ登録されている必修科目の曜日・時限・クラス等を確認する。
 - * 登録されていない必修科目については、各自で登録する。
- (1・2年生) 進級見込判定を行い、進級要件を満たしているか確認し、必要に応じて登録内容を修正する。
- (4年生) 卒業見込判定を行い、卒業要件を満たしているか確認し、必要に応じて登録内容を修正する。
- (1～4年生) 通年・前学期・後学期とも登録が終了した後は、必ず学生時間割を出力し、正しく登録されているか確認し、各自で保管すること。

4 履修登録完了・履修登録内容の確認 (Webポータルシステム「時間割照会」) manaba利用開始	4月3日(水) 17:00以降
---	-----------------

5 前学期授業開始	4月5日(金)
------------------	---------

チェックリスト
<input type="checkbox"/> (1~4年生) 初回授業から必ず出席すること。(履修者の選抜を行う場合があります。)
<input type="checkbox"/> (1年生) 以下の手続きが必要な場合は、『履修の手引』や掲示等を確認し、必ず所定の期限までに手続きを行うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ● (新入生) 既修得単位認定申請 → P.16参照

(やむを得ない事由で履修登録済科目に修正が必要な場合)

6 履修登録修正期間 (Webポータルシステム「履修登録」)	4月12日(金) 9:00 ~ 4月18日(木) 23:59
--	--------------------------------

注意 履修登録修正もWebポータルシステム「履修登録」で行います。操作方法等は、履修登録と同じです。

7 履修登録内容の確認 (Webポータルシステム「時間割照会」) manabaへ履修登録修正内容反映	4月19日(金) 13:00以降
---	------------------

(後学期)

履修登録修正期間 (Webポータルシステム「履修登録」)	授業開始前 9月6日(金) 9:00 ~ 9月11日(水) 23:59 授業開始後 9月20日(金) 9:00 ~ 9月26日(木) 23:59
---------------------------------	---

履修登録内容の確認 (Webポータルシステム「時間割照会」) manabaへ履修登録修正内容反映	授業開始前 9月12日(木) 17:00以降 授業開始後 9月27日(金) 13:00以降
--	--



必ず1年間分(通年・前学期・後学期)の授業科目を4月の履修登録期間中に登録してください。



今年度履修する科目がない学生は、履修登録期間内に学事課(教務担当)で所定の用紙を受領し、履修する科目がない旨を必ず届け出てください。(Webポータルシステムでの届出はできません。)

3

試験・成績

1 試験

履修した科目について単位の認定を受けるためには、試験を受けなければなりません。

試験の方法は、筆記試験、レポート・論文・作品の提出、実技、実習等がありますが、平常授業時の成績等を試験に代えることもあります。

注意 レポート・論文・作品の提出に当たっては、その提出方法等を授業担当教員に確認してください。学事課（教務担当）での取次ぎ等は一切行いません。

[1] 試験の種類

試験には、学年暦に定められた期間に行われる以下に掲げる種類の試験があります。ただし、授業科目によっては平常授業時に試験が行われることがあります。

区分	試験の種類等	概要
学年暦に定められた期間に行われる試験	定期試験	前学期又は後学期に終了する科目について定期試験時間割に基づき実施されます。 通年科目は、必要に応じて前学期にも行われる場合もあります。
	追試験	定期試験当日にやむを得ない事由（忌服、傷病、感染症、交通機関の遅れ、就職採用試験、出張等）のため受験できなかった者に対し、その欠席事由が正当と判断された場合に実施されます。
	再試験	定期試験等の結果、不合格（D評価）となった4年生に対し、授業担当教員が必要と認めた場合に実施されます。 なお、再試験の成績評価は「C」が最高となります。
平常授業時に行われる試験	授業担当教員が学修上必要と認めた場合、平常授業時に随時試験が行われます。 ● 試験の方法、時期等については、授業担当教員から指示があります。 ● 追試験の対象となりません。やむを得ない事由により受験できなかった場合の措置は、事前に授業担当教員に確認をしておいてください。 ● 学事課（教務担当）での取次ぎ等は一切行いません。	

参照→P.11

「試験日程・受験手続」



追試験・再試験を受験する場合は、所定手続が必要です。所定の手続を行わなかった場合は、受験することができません。

[2] 定期試験の欠席

やむを得ない事由により、学年暦に定められた期間に行われる定期試験を欠席した場合、次のとおり手続を行ってください。

※1
学校保健安全法施行規則第18条に定める感染症（P.2参照）の詳細については文部科学省HPを参照してください。

※2
「定期試験欠席届」（所定様式）は学事課（教務担当）で受領してください。

欠席の事由	提出書類		提出先	取扱い
	届出書類	添付書類		
父母、祖父母、兄弟、姉妹に不幸があった場合	定期試験欠席届 (所定様式) ※2	会葬礼状等	学事課 (教務担当)	欠席事由が正当であると判断される場合に追試験を実施します。
傷病		診断書又は医療機関の発行する領収書		
学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症にかかった場合 ※1		感染症名、発症日及び治癒までにかかった期間が判断できる診断書		
交通機関の遅れ		交通機関の発行する遅延証明書		
就職採用試験 (会社訪問、説明会を除く。)		採用試験通知		
社会人学生の出張		出張証明書 (社印又は公印が必要)		
裁判員等に選任され 裁判所に向いた場合	裁判所が発行する証明書類			

注意1 上記の取扱いは、平常授業時に行われる試験は除きます。

注意2 平常授業時に行われる試験の欠席については、欠席の事由を証明する書類を**授業期間内**に授業担当教員に直接提出し、その取扱いについて授業担当教員の指示を受けてください。学事課（教務担当）での取次ぎ等は一切行いません。

注意3 添付書類は原本を提出してください。

なお、原本の返却が必要な場合は、提出時に学事課（教務担当）に申し出てください。

[3] 試験日程・受験手続

		前 学 期	後 学 期
定期試験	試験時間割発表	7月5日(金) 2101・2103大講義室横掲示板	12月13日(金) 2101・2103大講義室横掲示板
	試験期間	7月25日(木)～31日(水)	1月21日(火)～27日(月)
追 試 験	定期試験欠席届の提出	定期試験欠席届に欠席事由を証明するものを添付して提出してください。	
	提出期限	8月1日(木)	1月28日(火)
	該当者発表 試験時間割発表 受験手続期間	8月19日(月)・20日(火) 2101・2103大講義室横掲示板	2月12日(水)・13日(木) 2101・2103大講義室横掲示板
	受験手続方法	1科目ごとに「追・再試験受験願」(受験料として1,000円の証紙を貼付)を提出し、受験票の交付を受けてください。 注意 受験票は受験の際に学生証とともに提示してください。	
	試験期間	8月21日(水)～23日(金)	2月14日(金)・17日(月)・18日(火)
再 試 験	該当者発表 試験時間割発表 受験手続期間	8月19日(月)・20日(火) 2101・2103大講義室横掲示板	2月12日(水)・13日(木) 2101・2103大講義室横掲示板
	受験手続方法	1科目ごとに「追・再試験受験願」(受験料として2,000円の証紙を貼付)を提出し、受験票の交付を受けてください。 注意 受験票は受験の際に学生証とともに提示してください。	
	試験期間	8月21日(水)～23日(金)	2月14日(金)・17日(月)・18日(火)
書類提出・受験手続		学事課(教務担当)	

注意 追試験及び再試験は、所定の手続を行わなかった場合、受験することができません。

[4] 試験時間

学年暦に定められた期間に行われる試験は1時限当たり60分で行われます。
なお、時間割は平常授業の曜日・時間・教室とは異なりますので、必ず2101・2103大講義室横掲示板で確認してください。

時限	曜日	月	火	水	木	金	土
1		9:30 ~ 10:30					
2		11:00 ~ 12:00					
3		13:00 ~ 14:00					
4		14:30 ~ 15:30					
5		16:00 ~ 17:00					

[5] 受験資格・ 受験上の注意 (学年暦に定められた 期間に行われる試験)

受験資格

次に該当する者は、受験資格がありません。

- 履修登録をしていない者
- 学生証を所持していない者
- 追・再試験については、所定の受験料の納入及び手続を行っていない者

受験上の注意

- 試験場では、試験監督者の指示に従ってください。
- 試験科目によっては、試験室の座席が1人置きに指定されていますので、試験監督者の指示に従って適宜着席してください。
- 試験開始後20分以上遅刻した者は、受験することができません。
- 試験開始後30分間は、試験室から退室することができません。
- 学生証を必ず持参し、机上的見やすいところに置いてください。
なお、忘れた場合は、学生支援課（学生支援担当）で仮学生証の発行を受けてください。
- 学生証、筆記用具（ペンケースを除く。）、その他試験で使用を許可された物以外は、すべてカバン等の中に入れ、椅子の下に置いてください。携帯電話・スマートフォン等は、電源を切ってカバン等の中に入れてください。また、試験中の物の貸し借りは認めません。
- 試験中に不正行為を行った者は、事情のいかんを問わず直ちに受験停止となり、以後、学則等に基づき処分されます。
- 原則として、実授業回数の5分の4以上の出席がなければ試験を受けることができません。



平常授業時に行われる試験の受験資格・受験上の注意については、授業担当教員の指示に従ってください。

不正行為者の懲戒処分

受験停止・退場

試験場において試験監督者の指示に従わなかった者は、受験停止となり、退場となる。

訓告処分

次のいずれかに該当する者は、訓告処分とし、当該学期の全履修科目の成績を0点とする。

- ①カンニングペーパー等を使用した者
- ②所持品、身体、机及び壁等に書込みをした者
- ③答案を見せた者及び見て書き写した者
- ④私語及び動作等で連絡した者及び連絡を受けて答案を書いた者
- ⑤使用が許可されていない物を使用した者
- ⑥試験場において試験監督者の指示に従わなかった者
- ⑦①～⑥に準ずる不正行為を行った者

停学処分

次のいずれかに該当する者は、停学処分とし、当該年度の全履修科目の成績を0点とする。

- ①受験を依頼した者及び依頼されて受験した者
- ②答案を交換した者
- ③訓告処分に該当する不正行為を再度行った者
- ④①～③に準ずる不正行為を行った者



携帯電話・スマートフォン等を時計の代わりとして使用するケースがみられます。

この行為は、不正行為者の懲戒処分に該当し、訓告又は停学処分の対象となりますので、試験時は必ず電源を切り、カバン等の中へ入れてください。

2 成績

[1] 成績評価・成績表記

成績評価及び成績表記は、次のとおりです。

判定	合格				不合格		認定	編入学時認定
	100 ～90	89～ 80	79～ 70	69～ 60	59～ 0	評価 対象外		
成績表に表記される評価	S	A	B	C	D	*	N	H
成績証明書に表記される評価	A		B	C	表記されない		N	H
成績評価の標準分布	10% 程度	20% 程度	—	—	20% 以内	—	—	—

- 評価対象外とは、授業期間を通じ出席不良、試験の未受験又はレポート未提出等のため、成績評価ができないものを指します。
- 「N」（認定）は、単位認定制度等により認定を受けた授業科目について表記されます。
- 「H」（編入学時認定）は、3年次への編入学生が入学時に認定を受けた科目等について表記されます。
- 成績評価の標準分布は、S 評価、A 評価及びD 評価の標準的な分布を表したものです。各授業科目の評価方法等については、『シラバス』で確認してください。

[2] GPA (成績平均点数制)

本学では、一定期間の履修及び学修状況をより明確に把握するために、GPA (Grade Point Average : 成績平均点数制) による成績・単位修得状況評価を行っています。

GPAは、それぞれの評価に設定されたグレード・ポイント (GP) に単位数を乗じた成績点数の和を、総履修単位数で除することによって算出されますので、一旦履修した科目については、途中で放棄することなく、確実に単位を修得するようにしてください。

なお、GPAは、学生への個別指導、奨学金の給付対象者の選考、宮田賞 (学業成績優秀者への表彰) 授与選考の基準となる他、派遣留学生の選抜及び履修者数の制限等に使用されます。

GPAの算出方法等

GPAの具体的な算出方法等は、次のとおりです。

判定	合格				不合格		認定	編入学時認定
成績評価	S	A	B	C	D	*	N	H
グレード・ポイント (GP)	4	3	2	1	0	0	除く	除く

①GPAの算出方法

※総履修単位数には、成績評価がN又はHの単位数は含まれません。

$$GPA = \frac{\text{(単位} \times \text{グレード・ポイント) の和}}{\text{総履修単位数}^*}$$

[GPAの算出例]

授業科目名	単位数	評価	単位数×グレード・ポイント
日本の歴史	2	B	2×2=4
日本国憲法	2	D	2×0=0
歯学基礎英語	1	S	1×4=4
口腔保健学概論	2	*	2×0=0
解剖学	2	A	2×3=6
公衆衛生学	2	C	2×1=2
合計	11		16

$$GPA = \frac{16}{11} = 1.45 \quad \text{※小数点第3位を四捨五入}$$

②総合評価

前記の方法により算出されたGPAによって、次のとおり評価を行います。

GPA	総合評価
3.50 ~ 4.00	特に優れている
3.00 ~ 3.49	優れている
2.00 ~ 2.99	良好
1.00 ~ 1.99	努力が必要
0 ~ 0.99	より一層の努力が必要

注意 総合評価は、履修科目全体の学修成果について評価したものであり、進級又は卒業要件単位の充足状況について評価したものではありません。

[3] 成績発表

成績発表は、次のとおり行います。

成績発表スケジュール

区分	対象年次等	発表日	
前学期 終了科目	1年(1学期) }	学 生	9月5日(木)
	4年(7学期)	保証人	9月上旬
後学期 終了科目	1年(1学期) }	学 生	3月14日(金)
	4年(7学期)	保証人	3月中旬
	4年(8学期)	学 生	3月3日(月)
		保証人	3月中旬

確認方法

学 生	Webポータルシステム「成績照会」で確認
保証人	成績表を郵送(ただし、学費を自己負担している学生の保証人を除きます。)

※住所変更等がある場合は、速やかにWebポータルシステムで変更の手続きを行ってください。

参照▶[Webポータルシステム
利用マニュアル]

[4] 成績調査

成績評価について疑問があり、授業担当教員に成績評価の調査を依頼する場合は、所定の期間内に手続きを行ってください。期間外の問い合わせには一切応じません。

区分	対象年次等	手続期間	提出書類	提出先	調査結果発表	
前学期 終了科目	1年(1学期) }	9月5日(木) ~10日(火)	成績調査願 (所定様式)※	学事課 (教務担当)	学事課 (教務担当)	
	4年(7学期)					
後学期 終了科目	4年(8学期)	9月5日(木) ・6日(金)				Webポータルシステム及び 掲示で呼び出しますので、必ず 本人が学生証を持参の上、 直接学事課(教務担当)で 確認してください。
	1年(1学期) }	3月17日(月) ~21日(金)				
	4年(7学期)					
	4年(8学期)	3月3日(月) ・4日(火)				

※成績調査願(所定様式)は手続期間内に学事課(教務担当)で受領してください。

注意1 成績調査願には、調査を依頼する理由を具体的に記入してください。

注意2 成績調査願は、受けた評価に対して疑問がある場合に成績評価の再確認を依頼するためのものであり、成績評価の変更を依頼したり、具体的な評価内容・点数等を確認するためのものではありません。

注意3 前学期に4年(8学期)に在籍している者の成績調査手続期間は、9月5日(木)・6日(金)です。この期間以外に手続を行うことはできません。

4 単位認定制度

1 単位認定制度について

本学では他の大学等における学修や知識及び技能に係る審査の成果に対して、単位を認定する制度があります。

学修の種類等	概 要	対象となる学修の時期		認定される 単位数の上限
		入学前	入学後	
入学前の既修得単位等の認定	既修得単位 本学入学前に他の大学又は短期大学で修得した単位の認定 (外国の大学若しくは短期大学で修得した単位又は科目等履修生として修得した単位を含む。)	○	—	30

2 既修得単位認定制度の内容及び申請方法等

既修得単位認定制度の内容及び申請方法等は、次のとおりです。

認定申請できる科目と単位数

科 目 区 分 等			認定単位数 (上限)		備 考
共 通 科 目	基礎教育	学修の基礎Ⅲ－a	2	30	各科目区分単位数の 合計30単位まで申請 することができます。
		学修の基礎Ⅲ－b (情報リテラシー)	2		
	人間力形成教育	人間形成	4		
		国際理解	4		
		社会生活	4		
専 門 科 目			14		

対象・申請方法等

対 象	2024年度入学の1年
申 請 期 間	3月28日（木）～4月5日（金）
申 請 書 類	① 単位認定申請書兼単位認定通知書（本学所定様式） ② 成績証明書又は単位修得証明書 ③ 認定申請する科目の授業内容を明らかにする文書で、次のa又はbのいずれかのもの a 出身校が発行した授業内容の証明書 b シラバス（写）
所定様式配布及び 申請書類提出先	学事課（教務担当）
単 位 認 定 発 表	4月12日（金） 学事課（教務担当）で、単位認定通知書を直接本人へ交付します。

注意 1 申請書類②及び③について、英語以外の外国語で記載されている場合は、日本語又は英語の訳文を添付してください。

注意 2 外国の大学又は短期大学で修得した単位の認定を希望する場合及び申請書類③のa又はbのいずれの書類も用意できない場合は、事前に学事課（教務担当）で相談してください。

認定申請の留意点

認定申請を行うに当たり、次に掲げる要件を満たしていることが認定の目安となりますので留意してください。

- ① 申請する科目は、本学の認定を受けようとする科目と単位数又は総授業時間数（実授業時間数）が同じ又はそれ以上であること。

注意 外国の大学等で修得した科目は、単位制によらない場合や、単位の換算基準が異なることがありますので、本学所定様式により総授業時間数等を申告してください。（成績証明書等に時間数の記載がない場合は、出身校に問い合わせの上、申告してください。）

- ② 申請する科目の授業内容を『シラバス』で確認し、本学で認定を受けようとする科目の内容に相当したものであること。

—申請例—

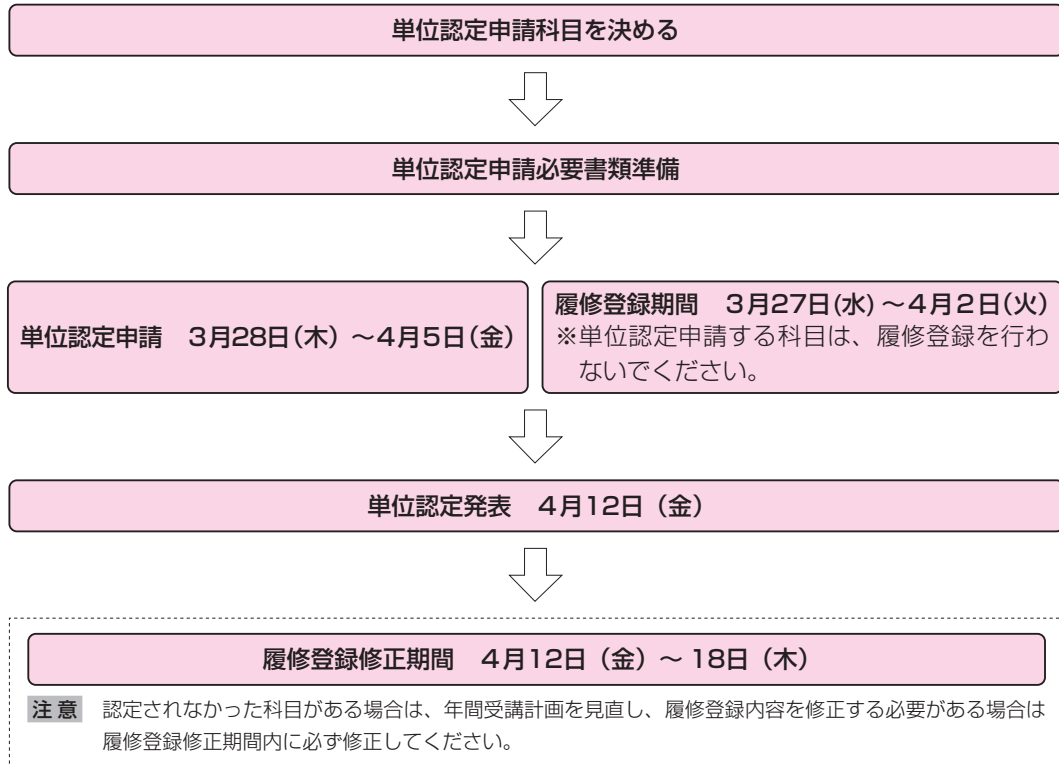
	他大学等開設科目	単位数（時間数）の比較	本学開設科目	備 考
○ （申請可）	日本史 （2単位 30時間）	\geq	日本の歴史 （2単位 30時間）	
× （申請不可）	日本国憲法 （1単位 15時間）	$<$	日本国憲法 （2単位 30時間）	授業内容が本学開設科目に相当しても、単位数（時間数）が少ないので、認定されません。

既修得単位認定申請と履修登録

既修得単位認定申請と履修登録手続の流れは、次のとおりです。

年間の受講計画を立てる際は、申請する科目がすべて認定されることを前提に検討し、履修登録は行わないてください。

なお、履修登録修正期間は、授業開始から数日が経過しており、学修に支障をきたすことがあるので、認定申請に当たっては、十分に検討し、安易な申請は慎んでください。



5 学籍

1 修業年限と在学期間

修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な期間で、通算4年（8学期）と定めています。また、在学期間とは、本学に在籍することができる期間で、上限を通算8年（16学期）と定めています。

修業年限 通算4年（8学期）

在学期間 通算8年（16学期）以内

参照▶編入学生の修業年限と在学期間
→P.51「修業年限と在学期間」

2 学籍の異動

[1] 休学

傷病その他やむを得ない事由により、引き続き3か月以上出席することができない者は、許可を得て休学することができます。

	概 要			
休学単位	学期			
休学期間	(1) 休学できる期間は、3か月以上で学期の期間（1学期）以内又は1年（2学期）以内とします。 ※年度を越えて1年（2学期）にわたる休学の場合は、各学期ごとに休学の願い出を行い、許可を得ること。 (2) 休学の継続は、1年（2学期）以内〔連続して休学できる期間の上限は2年（4学期）〕とします。 ※あらかじめ休学の願い出を行い、許可を得ること。 (3) 休学期間は、通算して3年（6学期）を超えることはできません。			
休学期間満了日	当該年度の前学期末の9月30日又は当該年度の後学期末の3月31日			
休学期間と修業年限・在学期間	休学期間は修業年限及び在学期間に算入されません。 <table border="1" style="display: inline-table; margin-right: 20px;"> <tr> <td>修業年限 通算4年(8学期)</td> <td>在学期間 通算8年(16学期)以内</td> </tr> </table> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td>休学期間 3年(6学期)以内</td> </tr> </table>	修業年限 通算4年(8学期)	在学期間 通算8年(16学期)以内	休学期間 3年(6学期)以内
修業年限 通算4年(8学期)	在学期間 通算8年(16学期)以内			
休学期間 3年(6学期)以内				
提出書類	保証人連署の「休学願」（所定様式・自署） ※傷病による休学は、診断書を添付してください。			
手続期限	休学開始希望日の1か月前			
休学の許可	休学が許可された場合、「休学許可書」が交付されます。			
休学による授業料等の免除	3月31日以前または9月30日以前に休学を願い出て許可された者は、休学が許可された学期に納付すべき授業料、施設維持費及び教育充実費が免除されます。			
在籍料	休学を許可された者は、在籍料として1学期当たり5万円を納付してください。			
学期の途中からの休学	学期の途中からの休学は1学期として換算します。 (1) 当該学期に開講されている授業科目の単位は認定されません。 (2) 当該学期に納入すべき学生納付金が完納されていない場合は、休学は許可されません。			
取扱窓口	学生支援課（学生支援担当）			

参考：休学期間一覧

休学期間		備 考
開始日	満了日	
4月1日	9月30日	前学期の1学期間休学
	年度末の3月31日	前学期と後学期の1年（2学期）間休学
前学期の途中	9月30日	前学期の1学期間休学
	年度末の3月31日	前学期と後学期の1年（2学期）間休学
10月1日	年度末の3月31日	後学期の1学期間休学
	翌年度9月30日	後学期と翌年度前学期の1年（2学期）間休学 ※各学期ごとに休学手続が必要
後学期の途中	年度末の3月31日	後学期の1学期間休学
	翌年度9月30日	後学期と翌年度前学期の1年（2学期）間休学 ※各学期ごとに休学手続が必要

[2] 復学

休学の事由が解消し復学を希望する者は、許可を得て復学することができます。

ア 復学の時期

復学の時期は、休学期間満了日の翌日とし、休学開始時と同じ学期へ復学するものとしてします。

復学する際には、自分の在籍する学期(年次)をよく確認し、学修計画を立ててください。

イ 復学手続

提出書類	保証人連署の「復学願」(所定様式・自署) ※傷病の回復による復学は、診断書を添付してください。
手続期限	復学希望日の1か月前
復学の許可	復学が許可された場合、「復学許可書」が交付されます。
取扱窓口	学生支援課(学生支援担当)

[3] 退学

傷病その他やむを得ない事由により退学を希望する者は、許可を得て退学することができます。

なお、退学希望日の属する学期に納入すべき学生納付金が完納されていない場合、退学は許可されません。

提出書類	保証人連署の「退学願」(所定様式・自署) ※傷病による退学は、極力、診断書を添付してください。
手続期限	退学希望日の1か月前
退学の許可	退学が許可された場合、「退学許可書」が交付されます。
取扱窓口	学生支援課(学生支援担当)

※学生証を退学日までに返却してください。

[4] 除籍

次のいずれかに該当する者は、除籍となります。

- 学生納付金の納入を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

納入期限	前学期	4月末日
	後学期	10月末日

- 学則に定められた在学期間を超えた者
- 学則に定められた休学期間を超えた者

※傷病その他の事由により、卒業の見込みがないと認められる者は、除籍となることがあります。

※学生証を返却してください。

[5] 復籍

学生納付金等の納入を怠り、督促を受けてもなお納入せずに除籍となった者が、除籍日の翌日から起算して2年以内に願い出た場合は、復籍を許可する場合があります。復籍を希望する場合は、学生支援課(学生支援担当)に相談してください。

[6] 転学部

転学部を志望する者がいるときは、異動を希望する学部欠員がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。

当該選考の有無並びに選考を行う場合の出願資格、受験手続及び日程等の詳細については、12月頃掲示で発表します。

異動区分	他学部(2年次)への異動
対象者	転学部する年度の4月1日現在で、本学に1年以上在学(休学期間は除く。)する者 ※各学科の条件等は、「転学部・転学科試験要項」で確認してください。
選考方法	出願書類、試験の成績、単位の修得状況及び成績等を総合判定
出願・選考の時期	2~3月頃

6

その他

1 明海多言語コミュニケーションcommons(MLACC)

明海多言語コミュニケーションcommons〔Meikai Multilingual And Communication Commons 通称MLACC（エムラック）〕は、建学の精神に則り、幅広い教養に裏打ちされたコミュニケーション能力を身につけ、主体的に異文化コミュニケーションを实践できるよう、支援する場所です。MLACCは、日本語ゾーン、英語ゾーン、中国語ゾーンの3つの言語ゾーンと多目的ゾーンと呼ばれる交流スペースで構成されます。日本語ゾーンでは、ライティングサポート及び留学生のための目的別日本語学習指導を行っています。英語ゾーンでは、英語ネイティブ教員や他の学生たちと親しく交わりながら、英語によるコミュニケーションのスキルアップを図ったり、英語に関する質問をしたりすることができます。フレンドリーな雰囲気の中、日常会話やゲームなどを通じて自然に英語が身につけ、キャンパスにいながらにして留学生生活を体験できます。

明海多言語コミュニケーションcommons (MLACC) の利用について

対 象 学部・学科を問わず、誰でも利用できます。
場 所 第2管理・研究棟2階
※利用時間等の詳細については、掲示等で確認してください。

2 コンピュータ・コンサルティング・サロン (CCS)

コンピュータ・コンサルティング・サロン (CCS) では、コンピュータを使った授業の分からないところを質問したり、レポートをまとめる際の集計や分析の手法を相談するなどコンピュータのスキルアップを図ることができます。

また、上級者はホームページの作成やプログラミングなどのより高度なスキルを学ぶこともできます。

コンピュータ・コンサルティング・サロン (CCS) の利用について

対 象 学部・学科を問わず、誰でも利用できます。
実施期間 前学期・後学期の授業期間内
利用時間 サロンに掲示します。
利用方法 予約の必要はありません。
時間内はいつでも気軽に参加してください。
場 所 30周年記念館（図書館）2階

7

教務事務

1 証 明 書

成績及び学籍等教務関係の諸証明書は、その種類に応じてStudent Information Services（以下「S.I.S.」という。）又は学事課（教務担当）で交付します。

S.I.S.以外の窓口での発行は、「証明書交付願」（所定の証紙を貼付）に必要事項を記入し申し込んでください。

証明書の種類によって交付に要する日数が異なり、また、証明書の申込みが集中する時期には、所定以上の日数を要することもありますので、時間に余裕をもって申し込んでください。

教務関係証明書

対象	証 明 書	取扱窓口	交付所要日数	手数料	備 考
在 学 生	☆成 績 証 明 書	S. I. S.	即時	300円	成績証明書には、単位を修得した科目のみ記載されます。
	☆卒業見込証明書				卒業要件を満たす履修登録がされている4年（9月卒業見込者を含む。）のみ発行します。ただし、後学期に4年7学期の者を除きます。
	単 位 修 得 証 明 書	学事課 （教務担当）	2日	300円 〔所定の証紙を購入〕	
	単位修得見込証明書				
	調査書・推薦書等 （大学院受験用）		7日		ゼミ担当教員又は学科主任等が必要事項（学習の所見、在学中の状況、記載責任者署名等）を記入したものを窓口へ提出し、申し込んでください。
卒 業 生 等	☆成 績 証 明 書	学事課 （教務担当）	2日	300円 〔所定の証紙を購入〕	成績証明書には、単位を修得した科目のみ記載されます。
	単 位 修 得 証 明 書				
	☆卒 業 証 明 書				
	☆在学期間証明書				
	調査書・推薦書等 （大学院受験用）	7日	ゼミ担当教員又は学科主任等が必要事項（学習の所見、在学中の状況、記載責任者署名等）を記入したものを窓口へ提出し、申し込んでください。		

※☆印は英文発行可能な証明書です。申込みは学事課（教務担当）で、交付所要日数は2日です。

※卒業生に限り郵便による申込みを受け付けます。手続方法等は、明海大学公式ホームページで確認してください。

※その他定型以外の証明書の発行については、学事課（教務担当）へ問い合わせてください。

注意 学事課（教務担当）で申し込んだ証明書の保管期限は、申込日から3か月までとします。この期限を過ぎた証明書は、受領の意思がないものとみなし廃棄します。なお、この場合の証明書発行手数料は返還しません。

学生生活関係証明書

学生生活関係の諸証明書は次のとおりです。詳細については『CAMPUS GUIDE』を参照してください。

対象	証明書	取扱窓口	交付所要日数	手数料	備考
在学生	☆健康診断証明書	S. I. S.	即時 (窓口発行は3日後)	300円	定期健康診断を受診又は医療機関の健康診断書を提出し、本学が指定した全受診科目において診断結果が異常なしの学生に発行します。 ※歯科検診結果については記載されません。
	☆在学証明書		即時 (窓口発行は翌日)		
	学割証	学生支援課 (学生支援担当)	即時	無料	年度内10枚まで発行可能。発行日から3か月間有効
	通学証明書				通学定期券を学生証の提示のみで購入できないときにのみ発行します。

※☆印は英文発行可能な証明書です。申込みは学生支援課（学生支援担当）で、交付所要日数は、在学証明書は翌日、健康診断証明書は7日です。

2 事務取扱時間

教務関係の事務取扱は、管理・研究棟2階の学事課（教務担当）において行います。窓口取扱時間は、次のとおりとなっていますので時間を厳守してください。

区 分		窓口取扱時間
授業期間	月～金	9:00～18:30
	土	9:00～13:00
試験期間	月～金	9:00～17:30
	土	9:00～13:00
その他 (夏季・冬季・春季休暇中等)	月～金	9:00～17:00
	土	9:00～13:00

注意 日曜日及び祝日（休日授業実施日を除く。）は休業となり、窓口取扱は一切行いません。また、入学試験及び大学行事等による休業や窓口取扱時間の変更については、掲示及び浦安キャンパス公式ホームページで告知します。

3 問い合わせ

- (1) 行事予定、休講、その他授業や試験・成績等についての電話での問い合わせには、一切応じません。
- (2) 教員の個人情報（住所、電話番号及びメールアドレス等）に関する問い合わせには、一切応じません。

4 学生への連絡

大学では、学生への告知、発表、諸手続等の連絡は、Webポータルシステムによる掲示配信又は掲示板への掲示で行います。Webポータルシステムや掲示板の掲示を見ないことを理由にしての諸手続の遅延や免責は認められませんので、十分注意してください。Webポータルシステムを毎日こまめに確認するとともに、登下校時には、必ず掲示板を見る習慣を身につけてください。

[1] Webポータルシステムによる掲示配信

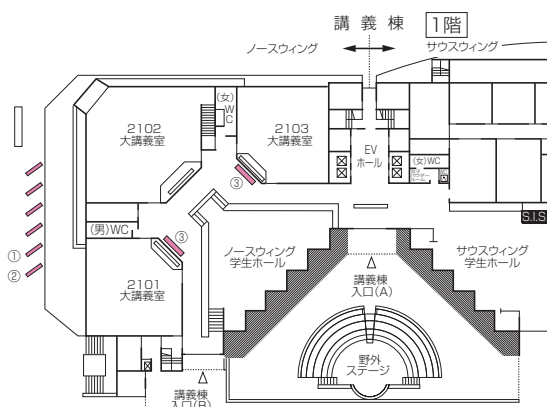
参照→[Webポータルシステム利用マニュアル]

大学からの緊急連絡、休講・補講・教室変更・学生呼出し等の諸連絡については、Webポータルシステムによる掲示配信で行いますので、こまめに確認してください。

また、パソコン・スマートフォン・携帯電話等のメールアドレスを登録すると各種掲示情報がメール配信されますので、必ず登録してください。

[2] 掲示板の場所と掲示内容

掲示板の場所及び掲示内容は、原則として次のとおりです。



NO.	掲 示 板	掲 示 内 容
①	呼び出し掲示板	呼び出し（履修、成績等の内容に関すること。）
②	全学共通掲示板	その他学生生活に関すること。
③	2101・2103大講義室横掲示板	履修関連、授業時間割、教室変更、定期試験、進級・卒業等に関すること。

※保健医療学部への授業（休講、補講）やレポート、平常授業時に行われる試験等に関する掲示は第2講義棟1階掲示板へ掲示します。

5 メールアカウントの付与

授業等において、講義資料の受領やレポート提出をスムーズに行えるようにするため、学生全員にメールアカウント（G-mail）を付与しています。メールアドレス及びパスワードについては、次のとおりです。

メールアドレス	s学籍番号@meikai.ac.jp (注：学籍番号は、学生証に記載されている8桁の番号です。)	
初期パスワード確認方法	手順①	Webポータルシステムにログインする。
	手順②	ログイン後、「個人情報」の中の「学籍情報照会」を選択する。
	手順③	「学内LANパスワード」欄に記載されているパスワードを使用する。

※メールアカウントの使用に当たっては、CAMPUS GUIDE巻末資料に記載されている「明海大学浦安キャンパスネットワーク利用規則（学生用）」を確認してください。

6 シラバス

『シラバス』には、各授業科目の授業の概要、到達目標、履修条件、評価基準・方法及び教科書等が記載されています。受講計画を立てる際の授業科目選択の手引きとして、また、学修を進めていく上でも『シラバス』を確認し、授業の目標達成のために活用してください。

『シラバス』は、明海大学浦安キャンパス公式ホームページから閲覧できます。

※授業科目によっては授業の進捗等により授業計画を変更することがあります。

<URL>

<https://syllabus.meikai.sugawara-p.co.jp/web/show.php>

<QRコード>



<パソコン版Webサイト画面>

明海大学
MEIKAI UNIVERSITY

Syllabus 2024

Home | 学部 | 大学院 | School of Hospitality & Tourism Management | GLOBAL MANAGEMENT MAJOR (PDF) | 実務経験のある教員等による授業科目 | 年度: 選択してください | 年度

自 シラバスの見方について

科目検索

はじめに

この『シラバス』には、2024年度に開講される授業科目の概要、到達目標及び授業内容等が掲載されています。1年間の学修計画を立てるに当たっての科目選択の手引として、さらには、日々の学修の参考にここに掲載された情報を活用してください。

なお、授業科目によっては、受講者数又は授業の進捗等により授業計画を変更することがあります。また、若干の授業科目については掲載されていないものもありますが、これらについては、別途掲示又は初回の授業時に担当教員から説明があります。

シラバスの見方について

各ページの始めには授業科目名、開講学科等、開講年次その科目を学修することによって得られる単位数及び授業担当教員名等が一目で分かるよう表示しています。

【(例) 参照】

ディプロマ・ポリシーの対応番号を記載
※ディプロマ・ポリシーの内容は「履修の手引」で確認できます。

履修可能な最低年次を記載

前：前学期に週1回授業が行われます。
前2：前学期に週2回授業が行われます。
後：後学期に週1回授業が行われます。
後2：後学期に週2回授業が行われます。
前/後：前学期に週1回、後学期に週1回同一内容の授業が行われます。(履修できるのは、前学期又は後学期のいずれかです。)
通：1年間を通して週1回授業が行われます。
集中：ある一定期間に連続して授業が行われます。

開講学科等	開講年次	単位数	備考
日英半額制付修	1年次	2単位	2024年度入学生のみ履修可能

授業の履修
この科目は、主修科・対応科・選い修の範囲によって、自己を履修し、大学を履修する。留学生選択科目：外国人留学生のみが履修可能な科目

<スマートフォン版サイト画面>

WEBシラバス
明海大学 2024

見方 検索

学部/大学院

学部 >

大学院 >

School of Hospitality & Tourism Management
GLOBAL MANAGEMENT MAJOR (PDF)

実務経験のある教員等による授業科目

年度を選択

2024年度 >

7 manaba

本学では、e-Learning実施のプラットフォームとなる学習管理システム〔Learning Management System (LMS)〕として「manaba (マナバ)」を導入しています。

「manaba」は、インターネットを利用し、講義資料の配布、レポートの提出、小テスト及びグループワーク等が行えるクラウド型の授業支援システムです。

「manaba」利用方法等の詳細については、利用マニュアル等を確認してください。

8 学修ポートフォリオ

本学では、学生一人ひとりの大学における学びの成果を分かりやすく目に見える形で表すシステムとして「学修ポートフォリオ (START)」を導入しました。

「START」では、自身が力を入れて学んだ分野や伸びた力をレーダーチャートなどで確認し、学修の改善につなげることができます。また、入学から卒業までのさまざまな活動をポートフォリオ (活動記録) として蓄積し、学修の振り返りをすることができます。

「START」利用方法の詳細については、利用マニュアル等を確認してください。

9 交通機関の運休又は自然災害等による休講措置

1 交通機関が運休した場合

JR京葉線 (東京-蘇我) が運転を中止した場合 (一時的な運転見合わせを除く。) は休講とする。ただし、運行を開始した場合は、次のとおりとする。

- (1) 午前6時30分までに運行を開始した場合…1時限から平常通り授業を開始する。
- (2) 午前10時30分までに運行を開始した場合…3時限から平常通り授業を開始する。
- (3) 午前10時30分を過ぎても運休している場合…当日の授業を全て休講とする。

2 暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

千葉県全域又は千葉県北西部に上記の警報が発令された場合は休講とする。ただし、警報が解除された場合は次のとおりとする。

- (1) 午前6時30分までに警報が解除された場合…1時限から平常通り授業を開始する。
- (2) 午前10時30分までに警報が解除された場合…3時限から平常通り授業を開始する。
- (3) 午前10時30分を過ぎても警報が解除されない場合…当日の授業を全て休講とする。

3 自然災害や大規模な事故の発生等で学長が必要と判断した場合

上記1または2の取扱いに関わらず、学長が必要と判断した場合は、休講措置を講ずる場合がある。

4 その他

- (1) 事前に被害が予想される場合は、前日までに休講措置を講ずる場合がある。
- (2) 休講に関する情報は、浦安キャンパス公式ホームページ、Webポータルシステム、学内掲示等により周知する。
- (3) 定期試験期間及び追再試験期間に同様の状況が発生した場合は、これらの措置を準用する。

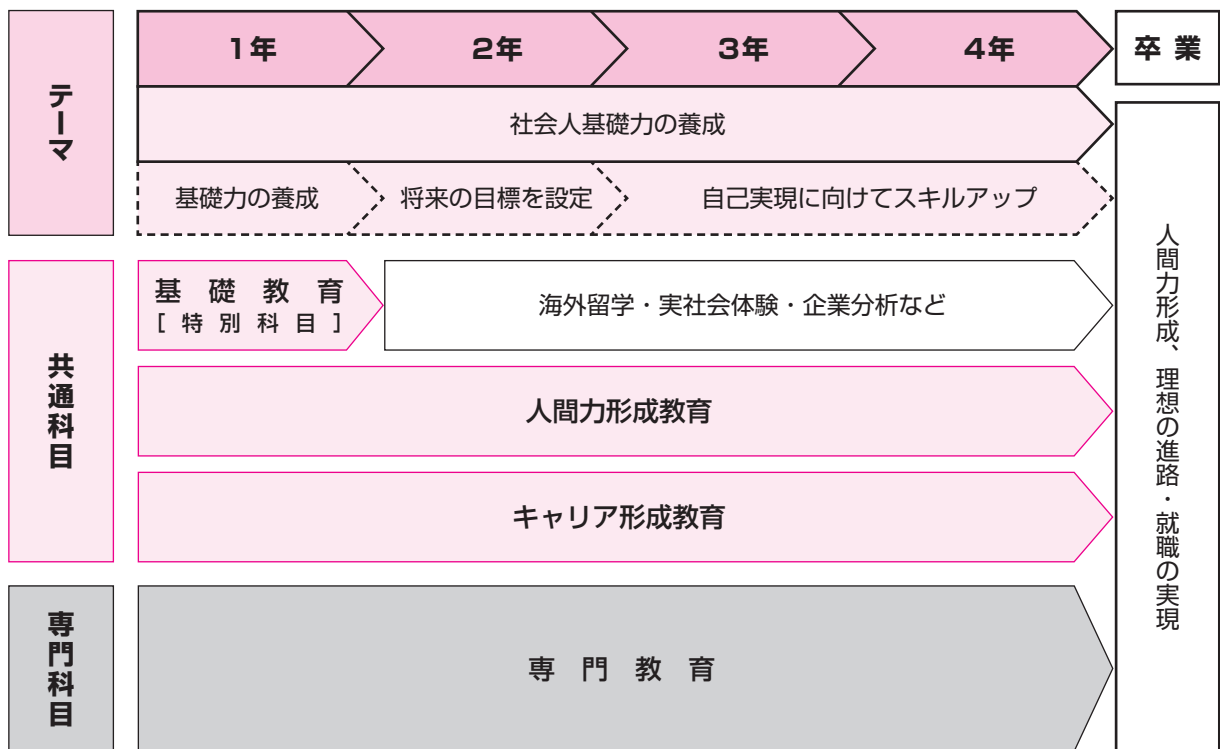
8

教育課程の構成

1 授業科目の構成

本学の授業科目は、大きく分けて「共通科目」と「専門科目」の2つの学修区分から編成されています。「共通科目」は、基礎教育〔特別科目〕、人間力形成教育、キャリア形成教育から構成され、「専門科目」では履修モデルにより目的に応じたより専門性の高い知識やスキルを、一定のルールと自らの選択により4年間で系統的かつ計画的に学修します。

各年次の学修テーマと学修区分ごとの科目配当は、おおむね次のとおりです。



各学修区分にはそれぞれの目的があり、その内容は次のとおりです。

共通科目 全学部・学科共通科目

基礎教育 〔特別科目※〕	学修の基礎Ⅰ	<p><スタディプロモーション> 自分自身の特性を知り、自分が学ぶ環境である大学を知り、4年間でどのように自分づくりをするか、目標を定めるための授業です。30～40人程度のクラス編成で少人数グループワーク等を実施します。自分自身の夢を探究し、浦安キャンパスの人と出会い、夢を実現するためのロードマップを作成します。</p>
	学修の基礎Ⅱ	<p><コミュニケーションスキル> コミュニケーションができるとは、相手の話を的確に理解し、自分の意見を正確に表現・伝達できることを意味します。本学教員が作成した教材で、コミュニケーションスキルの向上を図ります。</p>
	学修の基礎Ⅲ-a	<p><データリテラシー 数理・推論> 正解のない課題に対して最善解を求めていく力、さらにそこから自分の創造性と合理性を高めるロジカルシンキング（推論）の基本を身につけることをめざします。データサイエンスが重視される現代社会においてデータを正しく読み取り、論理的推論に基づいて判断する力を高めるトレーニングを行います。</p>
	学修の基礎Ⅲ-b (情報リテラシー)	<p><情報リテラシー> ビッグデータのAIによる活用が進むSociety 5.0に向けて、データサイエンスの入り口として、データを扱うための情報通信技術（ICT）の基礎、情報リテラシーを習得します。データの読み方をはじめとする分析スキルを習得し、現代社会における情報化の現状と情報倫理について理解することをめざします。</p>

※在留区分が留学であり、大学が必要と認めた場合、「アカデミック日本語Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得してください。

人間力形成教育	人間形成	幅広い分野の学問から自発的に学修計画を立てることによって、実社会のさまざまな場面で自ら課題を発見し解決していくことを可能にする力ー明海大学の「建学の精神」にある、社会性・創造性・合理性からなる人間力ーを育成します。
	国際理解	
	社会生活	

キャリア形成教育	キャリアプランニングⅠ	社会に出て働くことを考えることを通して、大学生活の目標を設定し、さらに、実際に仕事を進めていく上で重要な実践力「基礎力（ジェネリックスキル）」を修得します。
	キャリアプランニングⅡ	
	キャリアプランニングⅢ	
	キャリアデザイン	

専門科目 実学を中心とする目的別専門教育（履修モデル）

専門教育	専門領域について、高度な知識や技術を体系的に修得します。
------	------------------------------

2 専門科目

「歯科衛生士学校養成所指定規則（昭和二十五年文部省・厚生省令第一号）」及び「歯科衛生士養成所指導ガイドライン（平成27年3月31日付け医政発0331第61号）」に則った教育課程を編成するとともに、より高度で専門性の高い授業科目を配置するなど、歯学部を擁する本学の強みを生かした教育課程を編成しています。特に、超高齢社会、平均寿命の伸長、さらには健康志向の高まりの中において、とりわけ介護予防事業における口腔機能向上のための支援や、要介護高齢者施設における誤嚥性肺炎の予防などに関わる授業科目を充実させています。

なお、専門科目は、すべて必修科目で、2023年度以降入学生は54科目105単位を、2022年度以前入学生は51科目105単位を履修しなければなりません。

科目区分	概 要
基礎分野	「専門基礎分野」及び「専門分野」の基礎となる授業科目で主に1年次に開設しています。
専門基礎分野	人体並びに歯・口腔の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解し、健康・疾病について、その予防と回復過程に関する知識を修得します。また、併せて観察力、判断力を培う内容としています。
専門分野	歯科衛生活動を実践するために必要な基礎的理論や基礎技術について学修した後、専門的知識や技術を論理的に理解するとともに、歯科衛生士としての職業的倫理観や態度を養います。特に、歯科衛生士の専門的技術習得については、各回180分の学内実習によって主に学修するとともに、専門職としてのマインドや態度も身につけます。主に3年次から4年次に開講する臨地実習（臨床実習を含む。）については、歯科衛生活動における実践力を体験学修するとともに、他の歯科医療従事者や患者とのコミュニケーション能力を養います。
総合科目 (2023年度以降入学生) 総合演習 (2022年度以前入学生)	これまでに学修した各分野、領域の学修内容を統合・発展させた授業内容です。4年間の学びの集大成としての「卒業研究」に繋がる確かな基礎力と応用能力を修得します。
卒業研究	口腔保健学・歯科衛生学を創造的に推進する能力を身につけるために、口腔保健学科での学修内容にもとづくリサーチマインドを育成します。また同時に、指導教員のもとで研究手法を学び、研究活動を実践することによって得られた成果を公表するためのプレゼンテーション技法や卒業論文の執筆などに関する基本的な知識・技術・態度を修得するものです。

3 履修モデル

2023年度以降入学生

保健医療学部口腔保健学科履修モデル

() : 単位数

授業科目区分			1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件 単位数	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	人間生活・科学的思考の基盤・科学	科学人間	医療ホスピタリティ実習(1) 医療倫理・心理学(2)								3	10
		科学自然	生物学・化学(2)				保健情報統計学(1)				3	
		英語コミュニケーション	基礎英会話(1)	発展英会話(1)			歯学基礎英語(1)	歯学臨床英語(1)				
専門基礎分野	歯・口腔の構造と機能	人体の構造と機能	解剖学(2) 生理学(2)								4	25
		歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学(2) 口腔生理・機能学(2)	口腔組織・発生学(1)							5	
		疾病の成り立ち及び回復過程の促進		生化学・栄養生化学(2) 病理学・口腔病理学(2) 微生物学・口腔微生物学(2) 薬理学・歯科薬理学(2)							8	
		歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み		公衆衛生学(2)	口腔衛生学(2)		臨床医科学・多職種連携論(2)	衛生行政・介護福祉論(2)			8	
		歯科衛生士概論	口腔保健学概論(2)								2	
		臨床歯科医学		歯科保存学(2) 歯周治療学(1) 歯科補綴学(2)	口腔外科・麻酔学(2) 小児・矯正歯科学(2)	高齢者・スペシャルニーズ 歯科学(2) 摂食嚥下リハビリテーション学(2)					13	
		歯科予防処置論		歯科医療安全実習(1)	基礎歯科予防処置論(2) 基礎歯科予防処置実習(1)	応用歯科予防処置論(2) 応用歯科予防処置実習(1)			口腔保健管理学実習(1)		8	
専門分野	歯科保健指導論		基礎歯科保健指導論(2) 基礎歯科保健指導実習(1)	応用歯科保健指導論(2) 応用歯科保健指導実習(1)	摂食嚥下リハビリテーション実習(1)	臨床歯科衛生活動実習(1)			8	61		
	歯科診療補助論		歯科臨床と材料の基礎(2)	基礎歯科診療補助論(2) 基礎歯科診療補助実習(1)	臨床歯科診療補助論(2) 臨床歯科診療補助実習(1)	臨床検査・放射線学(2)			10			
	臨地実習(臨床実習を含む。)					口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ(4)	口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ(8)	口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ(8)	20			
総合科目						歯科衛生総合実習(OSCE)(1)		総合口腔保健学特論(4) * 通年科目	5	5		
卒業研究							卒業研究概論(1)	卒業研究(3) * 通年科目	4	4		

I

共通事項(全学生共通)

8

教育課程の構成

保健医療学部口腔保健学科履修モデル

○：必修 ・：選択 ()：単位数

授業科目区分			1年次		2年次		3年次		4年次		卒業要件 単位数	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎分野	人間科学 科学的思考の基盤・ 人間と生活	科学人間	○生命哲学(2)	○医療心理学(2)							4	12
		科学自然	○生物学(2)	○化学(2)							4	
		英語コミュニケーション		○歯学基礎英語(1)	○歯学臨床英語(1)	○英会話Ⅰ(1)	○英会話Ⅱ(1)				4	
専門基礎分野	人体の構造と機能 歯・口腔の構造と機能 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	人体の構造と機能	○解剖学(2) *解剖実習見学を含む。 ○生理学(2)								4	24
		歯・口腔の構造と機能	○口腔解剖学(2) ○口腔生理・機能学(2)	○口腔組織・発生学(2)							6	
		疾病の成り立ち及び回復過程の促進			○口腔病理・微生物学(2)	○生化学・栄養生化学(2) ○薬理学・歯科薬理学(2)					6	
		歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み		○公衆衛生学(2) *衛生行政を含む。	○口腔衛生学(2) *衛生統計、医療倫理を含む。			○介護福祉(2) ○臨床医学(2)			8	
		歯科衛生士概論	○口腔保健学概論(2) *臨床見学を含む。								2	
		臨床歯科医学				○歯科保存学(2) ○歯科補綴学(2) ○小児・矯正歯科学(2)	○臨床検査・放射線学(2) ○口腔外科・麻酔学(2) ○高齢者・スペシャルニーズ歯科学(2) ○摂食嚥下リハビリテーション学(2)				14	
専門分野	歯科予防処置論 歯科保健指導論 歯科診療補助論 臨地実習(臨床実習を含む。)	歯科予防処置論			○歯科予防処置論Ⅰ(2) ○歯科予防処置実習Ⅰ(1)	○歯科予防処置論Ⅱ(2) ○歯科予防処置実習Ⅱ(1)	○臨床歯科衛生生活動論(2)	○口腔保健管理実習(1)			9	61
		歯科保健指導論			○歯科保健指導論Ⅰ(2) ○歯科保健指導実習Ⅰ(1)	○歯科保健指導論Ⅱ(2) ○歯科保健指導実習Ⅱ(1)		○摂食嚥下リハビリテーション実習(1)			7	
		歯科診療補助論		○歯科診療補助論Ⅰ(2) ○歯科診療補助実習Ⅰ(1)	○歯科診療補助論Ⅱ(2) ○歯科診療補助実習Ⅱ(1)	○歯科診療補助実習Ⅲ(1)	○チーム歯科医療学実習Ⅰ(1)	○チーム歯科医療学実習Ⅱ(1)			9	
		臨地実習(臨床実習を含む。)					○口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ(8)	○口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ(8)	○口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ(4)		20	
		総合演習							○歯科総合演習(4) * 通年科目		4	
卒業研究							○卒業研究(4) * 通年科目		4	4		

4 履修条件

2023年度以降入学生

【2年次前期の履修条件】

1年次に開講される専門科目の単位を全て修得していない場合は、2年次に開講される専門科目を履修することができない。

【2年次後期の履修条件】

- ① 「基礎歯科予防処置論」及び「基礎歯科予防処置実習」の単位を修得していない場合は、「応用歯科予防処置論」及び「応用歯科予防処置実習」を履修することができない。
- ② 「基礎歯科保健指導論」及び「基礎歯科保健指導実習」の単位を修得していない場合は、「応用歯科保健指導論」及び「応用歯科保健指導実習」を履修することができない。
- ③ 「基礎歯科診療補助論」及び「基礎歯科診療補助実習」の単位を修得していない場合は、「臨床歯科診療補助論」及び「臨床歯科診療補助実習」を履修することができない。

【臨床臨地実習を行うための条件】

3年次前期「歯科衛生総合実習（OSCE）」で行う「客観的臨床能力試験」に合格していない者は、3年次前期から始まる「臨床臨地実習」を行うことができない。

※原則、「客観的臨床能力試験」の欠席は認めない。欠席する場合は、必ず科目担当教員へ事前に申し出ること。ただし、以下①～⑦による欠席については、併せて欠席理由を証明する書類を科目担当教員へ提出すること。（急な欠席となる場合もできるだけ迅速に申し出ること。）

【理由証明が必要な欠席理由】

- ① 父母、祖父母、兄弟、姉妹 に不幸があった場合：会葬礼状等
- ② 傷病：診断書
- ③ 学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症にかかった場合：
診断書（発症日及び治癒までにかかった期間が判断できるもの）
- ④ 交通機関の遅れ：遅延証明書
- ⑤ 就職採用試験（会社訪問、説明会を除く。）：採用試験通知
- ⑥ 社会人学生の出張：出張証明書（社印又は公印が必要）
- ⑦ 裁判員等に選任され裁判所に向いた場合：裁判所が発行する証明書類

3年次前期に開講される「口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ」の単位を修得していない者は、3年次後期に開講される「口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ」を履修することができない。

3年次後期に開講される「口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ」の単位を修得していない者は、4年次前期に開講される「口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ」を履修することができない。

【3年次前期の履修条件】

2年次までに開講される専門科目の単位を全て修得していない場合は、3年次に開講される専門科目を履修することができない。

【4年次前期の履修条件】

3年次までに開講される専門科目の単位を全て修得していない場合は、4年次に開講される専門科目を履修することができない。

2022年度以前入学生

【2年次前期の履修条件】

1年次に開講される専門科目の単位を全て修得していない場合は、2年次に開講される専門科目を履修することができない。

【2年次後期の履修条件】

- ① 「歯科予防処置論Ⅰ」及び「歯科予防処置実習Ⅰ」の単位を修得していない場合は、「歯科予防処置論Ⅱ」及び「歯科予防処置実習Ⅱ」を履修することができない。
- ② 「歯科保健指導論Ⅰ」及び「歯科保健指導実習Ⅰ」の単位を修得していない場合は、「歯科保健指導論Ⅱ」及び「歯科保健指導実習Ⅱ」を履修することができない。
- ③ 「歯科診療補助論Ⅰ・Ⅱ」及び「歯科診療補助実習Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していない場合は、「歯科診療補助実習Ⅲ」を履修することができない。

【臨床臨地実習を行うための条件】

1年次に実施される「マナー講座Ⅰ」と2年次に実施される「マナー講座Ⅱ」の修了認定及び修了見込みを受けていない者は、2年次後期に実施される「客観的臨床能力試験（OSCE）」を受験することができない。

(2022年度入学生のみ)

2年次後期に実施される「客観的臨床能力試験（OSCE）」に合格していない者は、3年次前期から始まる「臨床臨地実習」を行うことができない。

※原則、「客観的臨床能力試験（OSCE）」の欠席は認めない。欠席する場合は、必ずOSCE担当教員へ事前に申し出ること。

ただし、以下①～⑦による欠席については、併せて欠席理由を証明する書類をOSCE担当教員へ提出すること。（急な欠席となる場合もできるだけ迅速に申し出ること。）

【理由証明が必要な欠席理由】

- ① 父母、祖父母、兄弟、姉妹 に不幸があった場合：会葬礼状等
- ② 傷病：診断書
- ③ 学校保健安全法施行規則第18条に定められた感染症にかかった場合：
診断書（発症日及び治癒までにかかった期間が判断できるもの）
- ④ 交通機関の遅れ：遅延証明書
- ⑤ 就職採用試験（会社訪問、説明会を除く。）：採用試験通知
- ⑥ 社会人学生の出張：出張証明書（社印又は公印が必要）
- ⑦ 裁判員等に選任され裁判所に向いた場合：裁判所が発行する証明書類

3年次前期に開講される「口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ」の単位を修得していない者は、3年次後期に開講される「口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ」を履修することができない。

3年次後期に開講される「口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ」の単位を修得していない者は、4年次前期に開講される「口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ」を履修することができない。

【3年次前期の履修条件】

2年次までに開講される専門科目の単位を全て修得していない場合は、3年次に開講される専門科目を履修することができない。

【4年次前期の履修条件】

3年次までに開講される専門科目の単位を全て修得していない場合は、4年次に開講される専門科目を履修することができない。

5 クラス担任制

専任教員による担任制度を設け、履修指導、進路指導及び生活指導等を含め幅広くきめ細かい指導・相談体制を構築します。

6 社会福祉主事について

保健医療学部口腔保健学科の卒業要件を満たした者に対して、社会福祉主事となる資格を有することの証明書を発行します。

証明書は、卒業式・学位記授与式当日に該当者に交付します。

また、本資格の詳細については、厚生労働省のホームページで確認してください。

参考 厚生労働省ホームページ

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/shakai-kaigo-fukushi1/shakai-kaigo-fukushi9.html

7 カリキュラムマップ（履修系統図）

2023年度以降入学学生

保健医療学部 口腔保健学科

スコープ：学修経験の範囲と水平的統合

共通科目	ディプロマ・ポリシー (DP) (学位授与方針)	【DPM1/M2/M3】共通科目にあつては、全学のディプロマ・ポリシーに基づく次の項目を学位授与の基礎要件とする。 1 社会性：社会に貢献するホスピタリティマインドを持ち、協働に向けて主体的に思考し、的確に判断し、決断することができる。 2 創造性：夢に向け熱意を持ち、試行錯誤をし、小さな発見を積み重ね、新たな価値を産みだして的確に表現することができる。 3 合理性：知識やスキルを学び、目標達成に向けて多様な情報を収集し、適切に選択して活用することができる。				
		基礎教育（特別科目を含む。）、人間力形成教育（人間形成、国際理解、社会生活）、キャリア形成教育				
専門科目	ディプロマ・ポリシー (DP) (学位授与方針)	①口腔保健にかかる健康増進・医療・福祉に携わることができる知識と技能を有し実践することができる。	②歯科衛生士としての誇りと職業倫理を有し、生涯にわたって国民の健康な生活を確保することができる。	③医療にかかわる他の職種とも連携して、口腔保健の立場から社会的な貢献ができる。	④口腔保健の専門職種として国際社会で活躍することができる。	⑤課題に対して論理的思考力を発揮して解決することができる。
	4年次履修	口腔保健管理学実習(1) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅲ(8) 総合口腔保健学特論(4)	口腔保健管理学実習(1) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅲ(8) 総合口腔保健学特論(4) 卒業研究(3)	口腔保健学臨床臨床実習Ⅲ(8)	卒業研究(3)	口腔保健管理学実習(1) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅲ(8) 卒業研究(3)
	3年次履修	衛生行政・介護福祉論(2) 臨床医科学・多職種連携論(2) 高齢者・スペシャルニーズ歯科学(2) 摂食嚥下リハビリテーション学(2) 摂食嚥下リハビリテーション実習(1) 臨床歯科衛生活動実習(1) 臨床検査・放射線学(2) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅰ(4) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅱ(8) 歯科衛生総合実習(OSCE)(1)	摂食嚥下リハビリテーション実習(1) 臨床歯科衛生活動実習(1) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅰ(4) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅱ(8) 歯科衛生総合実習(OSCE)(1) 卒業研究概論(1)	衛生行政・介護福祉論(2) 臨床医科学・多職種連携論(2) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅰ(4) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅱ(8)	歯学基礎英語(1) 歯学臨床英語(1) 卒業研究概論(1)	保健情報統計学(1) 摂食嚥下リハビリテーション実習(1) 臨床歯科衛生活動実習(1) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅰ(4) 口腔保健学臨床臨床実習Ⅱ(8) 歯科衛生総合実習(OSCE)(1) 卒業研究概論(1)
	2年次履修	口腔衛生学(2) 歯科保存学(2) 歯周治療学(1) 歯科補綴学(2) 口腔外科・麻酔学(2) 小児・矯正歯科学(2) 基礎歯科予防処置論(2) 応用歯科予防処置論(2) 基礎歯科予防処置実習(1) 応用歯科予防処置実習(1) 基礎歯科保健指導論(2) 応用歯科保健指導論(2) 基礎歯科保健指導実習(1) 応用歯科保健指導実習(1) 基礎歯科診療補助論(2) 臨床歯科診療補助論(2) 基礎歯科診療補助実習(1) 臨床歯科診療補助実習(1)	口腔衛生学(2) 基礎歯科予防処置論(2) 応用歯科予防処置論(2) 基礎歯科予防処置実習(1) 応用歯科予防処置実習(1) 基礎歯科保健指導論(2) 応用歯科保健指導論(2) 基礎歯科保健指導実習(1) 応用歯科保健指導実習(1) 基礎歯科診療補助論(2) 臨床歯科診療補助論(2) 基礎歯科診療補助実習(1) 臨床歯科診療補助実習(1)			基礎歯科予防処置実習(1) 応用歯科予防処置実習(1) 基礎歯科保健指導実習(1) 応用歯科保健指導実習(1) 基礎歯科診療補助実習(1) 臨床歯科診療補助実習(1)
1年次履修	医療倫理・心理学(2) 生物学・化学(2) 解剖学(2) 生理学(2) 口腔解剖学(2) 口腔生理・機能学(2) 口腔組織・発生学(1) 生化学・栄養生化学(2) 病理学・口腔病理学(2) 微生物学・口腔微生物学(2) 薬理学・歯科薬理学(2) 公衆衛生学(2) 口腔保健学概論(2) 歯科医療安全実習(1) 歯科臨床と材料の基礎(2)	医療ホスピタリティ実習(1) 口腔保健学概論(2)	解剖学(2) 生理学(2) 公衆衛生学(2)	基礎英会話(1) 発展英会話(1)	歯科医療安全実習(1)	

シークェンス…学修経験の順次性と垂直的統合

スコープ：学修経験の範囲と水平的統合

共通科目	1~4年次	<p>【DPM1/M2/M3】共通科目にあつては、全学のディプロマ・ポリシーに基づく次の項目を学位授与の基礎要件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会性：社会に貢献するホスピタリティマインドを持ち、協働に向けて主体的に思考し、的確に判断し、決断することができる。 2 創造性：夢に向け熱意を持ち、試行錯誤をし、小さな発見を積み重ね、新たな価値を産みだして的確に表現することができる。 3 合理性：知識やスキルを学び、目標達成に向けて多様な情報を収集し、適切に選択して活用することができる。 <p>基礎教育（特別科目を含む）、人間力形成教育（人間形成、国際理解、社会生活）、キャリア形成教育</p>				
	ディプロマ・ポリシー (DP) (学位授与方針)	①口腔保健にかかる健康増進・医療・福祉に携わることができる知識と技能を有し実践することができる。	②歯科衛生士としての誇りと職業倫理を有し、生涯にわたって国民の健康な生活を確保することができる。	③医療にかかわる他の職種とも連携して、口腔保健の立場から社会的な貢献ができる。	④口腔保健の専門職種として国際社会で活躍することができる。	⑤課題に対して論理的思考力を発揮して解決することができる。
専門科目	4年次履修	歯科総合演習 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅲ	歯科総合演習 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅲ	歯科総合演習 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅲ	歯科総合演習 卒業研究	歯科総合演習 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅲ 卒業研究
	3年次履修	臨床検査・放射線学 口腔外科・麻酔学 高齢者・スペシャルニーズ歯科学 摂食嚥下リハビリテーション学 介護福祉 臨床医科学 摂食嚥下リハビリテーション実習 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅰ 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅱ	臨床歯科衛生活動論 口腔保健管理学実習 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅰ 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅱ	臨床検査・放射線学 口腔外科・麻酔学 高齢者・スペシャルニーズ歯科学 摂食嚥下リハビリテーション学 介護福祉 臨床医科学 摂食嚥下リハビリテーション実習 チーム歯科医療学実習Ⅰ チーム歯科医療学実習Ⅱ 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅰ 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅱ	英会話Ⅱ	臨床歯科衛生活動論 チーム歯科医療学実習Ⅰ チーム歯科医療学実習Ⅱ 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅰ 口腔保健学臨床臨床地実習Ⅱ
	2年次履修	口腔病理・微生物学 口腔衛生学 歯科予防処置論Ⅰ 歯科予防処置実習Ⅰ 歯科保健指導論Ⅰ 歯科保健指導実習Ⅰ 歯科診療補助論Ⅱ 歯科診療補助実習Ⅱ 生化学・栄養生化学 薬理学・歯科薬理学 歯科保存学 歯科補綴学 小児・矯正歯科学 歯科予防処置論Ⅱ 歯科予防処置実習Ⅱ 歯科保健指導論Ⅱ 歯科保健指導実習Ⅱ 歯科診療補助実習Ⅲ	口腔衛生学 歯科予防処置論Ⅰ 歯科予防処置実習Ⅰ 歯科保健指導論Ⅰ 歯科保健指導実習Ⅰ 歯科予防処置論Ⅱ 歯科予防処置実習Ⅱ 歯科保存学 歯科補綴学 小児・矯正歯科学 歯科保健指導論Ⅱ 歯科保健指導実習Ⅱ 歯科診療補助論Ⅱ 歯科診療補助実習Ⅱ 歯科診療補助実習Ⅲ		歯学臨床英語 英会話Ⅰ	歯科予防処置実習Ⅰ 歯科予防処置実習Ⅱ 歯科保健指導実習Ⅰ 歯科保健指導実習Ⅱ 歯科診療補助実習Ⅰ 歯科診療補助実習Ⅱ 歯科診療補助実習Ⅲ
	1年次履修	生命哲学 医療心理学 生物学 化学 解剖学 生理学 口腔解剖学 口腔生理・機能学 口腔組織・発生学 公衆衛生学 歯科診療補助論Ⅰ 歯科診療補助実習Ⅰ	口腔保健学概論 歯科診療補助論Ⅰ 歯科診療補助実習Ⅰ	解剖学 生理学	口腔保健学概論 歯学基礎英語 公衆衛生学	歯科診療補助実習Ⅰ

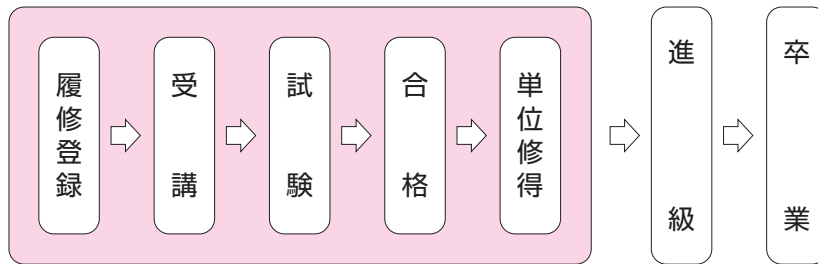
シーケンス…学修経験の順次性と垂直的統合

9

進級・卒業

卒業するためには、各学部・学科で定めている授業科目を一定の規則に従い習い修め、進級・卒業の要件を満たすことが必要となります。

在学中はこれらの要件を常に念頭に置き、無理や無駄のない履修登録を行い、確実に単位を修得するよう心がけてください。



1 進級

[1] 進級要件

2023年度以降入学生

1年から2年、2年から3年、及び3年から4年へ進級する際に、以下の要件が定められています。この要件を満たせない場合、2年（3学期）、3年（5学期）又は4年（7学期）に進級することができません。

1年から2年への進級

- 入学後1年（2学期）以上在籍していること。（休学期間を除く。）
- 次の単位数を修得していること。

授業科目等	必要単位数
「専門科目」の1年次開講必修科目	31単位

2年から3年への進級

- 入学後2年（4学期）以上在籍していること。（休学期間を除く。）
- 次の単位数を修得していること。

授業科目等	必要単位数
「共通科目」の必修科目	8単位
「専門科目」の2年次開講必修科目	29単位
合計	37単位

（社会人を対象とする入学試験制度によって入学した学生）

授業科目等	必要単位数
「共通科目」の人間力形成教育科目	8単位
「専門科目」の2年次開講必修科目	29単位
合計	37単位

3年から4年への進級

- 入学後3年(6学期)以上在籍していること。(休学期間を除く。)
- 次の単位数を修得していること。

授業科目等	必要単位数
「専門科目」の3年次開講必修科目	29単位

2019～2022年度入学生

2年から3年へ進級する際に、以下の要件が定められています。この要件を満たせない場合、3年(5学期)に進級することができません。

2年から3年への進級

- 入学後2年(4学期)以上在籍していること。(休学期間を除く。)
- 次の単位数を修得していること。

授業科目等	必要単位数
「共通科目」の必修科目	8単位
「専門科目」の必修科目「口腔保健学概論」	2単位
上記で修得した科目以外の必修科目	34単位
合計	44単位

(社会人を対象とする入学試験制度によって入学した学生)

授業科目等	必要単位数
「専門科目」の必修科目「口腔保健学概論」	2単位
上記で修得した科目以外の必修科目	42単位
合計	44単位

参照→具体的な授業科目
名称等
→「教育課程表」

[2] 進級発表

進級要件を満たした者を、次のとおり発表します。

進級要件を満たした者は、翌年度から2年(3学期)、3年(5学期)又は4年(7学期)に進級します。

発表日時	3月14日(金) 9:00
発表場所	2101・2103大講義室横掲示板

2 卒業

[1] 卒業要件

本学において4年（通算8学期）以上在学（休学期間を除く。）し、学則に定められた卒業所要単位を修得した者は、卒業が認定されます。

卒業に必要な単位数（最低）は、次のとおりです。

次のとおり、合計125単位以上修得しなければならない。

共通科目					専門科目	合計	
基礎教育 特別科目 ※	人間力形成教育			キャリア形成教育	計		必修
	人間形成	国際理解	社会生活				
必修	選択必修			選択			
8	4	4	4	—	20	105	125

共通科目（20単位）

- ① 基礎教育から必修8単位
※在留資格が「留学」の学生は、大学が必要と認めた場合、「アカデミック日本語Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得してください。
- ② 人間力形成教育の人間形成から4単位
- ③ 人間力形成教育の国際理解から4単位
- ④ 人間力形成教育の社会生活から4単位

専門科目（105単位）

必修科目105単位

参照1 → 具体的な授業科目名称及び必修・選択必修・選択の内訳等 → 「教育課程表」

参照2 → 編入学生の卒業要件等 → P.53 「卒業要件」

（社会人を対象とする入学試験制度によって入学した学生）

次のとおり、合計125単位以上修得しなければならない。

共通科目					専門科目	合計		
基礎教育	人間力形成教育			キャリア形成教育	基礎教育・人間力形成教育		計	必修
	人間形成	国際理解	社会生活					
	選択必修					選択		
	4	4	4		8	20	105	125

共通科目（20単位）

- ① 人間力形成教育の人間形成から4単位
- ② 人間力形成教育の国際理解から4単位
- ③ 人間力形成教育の社会生活から4単位
- ④ ①から③によるもののほか、共通科目全体（基礎教育・人間力形成教育）から8単位以上

専門科目（105単位）

必修科目105単位

参照 → 具体的な授業科目名称及び必修・選択必修・選択の内訳等 → 「教育課程表」

[2]

卒業単位充足者・卒業予定者発表

卒業要件を満たした者を、次のとおり発表します。

卒業単位充足者発表

2月12日（水）9：00
発表場所：2101・2103大講義室横掲示板



※卒業単位充足者：後学期定期試験終了時までの成績で卒業の要件を満たした者

卒業予定者発表

3月3日（月）9：00
発表場所：2101・2103大講義室横掲示板



※卒業予定者：後学期追・再試験終了時までの成績で卒業の要件を満たし、当該年度末に卒業が認定される予定の者

卒業式・学位記授与式

3月14日（金）

[3] 学位

卒業要件を満たした者には、学士（口腔保健学）の学位が授与されます。

3 年次（学期）別基準単位数

年次（学期）別基準単位数は、4年（8学期）間で卒業要件単位数（最低）を充足するために、各年次終了時までまでに修得しておくことが望ましい単位数の目安を科目区分別に示しています。4年（8学期）間の学修計画を立てる際の参考として活用してください。また、修得単位数がこの年次（学期）別基準単位数を著しく下回っている場合は、今後の修学を滞りなく行うためにも、早い時期に指導教員又は学事課（教務担当）へ相談するようにしてください。

なお、この年次（学期）別基準単位数は、あくまでも最低限修得しておくことが望ましい単位数の目安を提示しているもので、進級や卒業を保証するものではありません。

年次（学期）別基準単位数の見方

	共通科目						専門科目	合計	小計	
	基礎教育 [特別科目*]	人間力形成教育			キャリア形成教育	計	必修		学期	年間
		人間形成	国際理解	社会生活						
	必修	選択必修			—					
卒業要件単位数	8	4	4	4	—	20	105	125		
1年（1学期）	4		—		—	4	14	18	18	34
1年（2学期）	8		—		—	8	26	34	16	

卒業に必要な単位数（最低）を授業科目区分ごとに表示

修得しておくことが望ましい単位数の目安を学年（学期）毎に累計で表示
 * 修得単位数とは、成績評価の結果、合格（S～C）又は認定（N）となった単位数

留意点

修得単位数は、単位が認定される学期に計上されますので、通年科目については注意してください。

例		前学期科目（2単位）	後学期科目（2単位）	通年科目（4単位）
修得単位数	前学期	2	—	0
	後学期	—	2	4

2023年度以降入学生

	共通科目					計	専門科目 必修	合計	小計	
	基礎教育 特別科目*	人間力形成教育			キャリア形成教育				必修	合計
		人間形成	国際理解	社会生活		—				
卒業要件単位数	8	4	4	4	—	20	105	125		
1年(1学期)	4	※(2~)			—	6	16	22	22	43
1年(2学期)	8	※(4~)			—	12	31	43	21	

1年終了時の修得単位数の基準は、合計43単位を目安とする。

<留意点> ① 1年次の必修科目(基礎教育、専門科目)は必ず修得する。

② 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

*在留区分が留学であり、大学が必要と認めた場合、「アカデミック日本語Ⅰ~Ⅳ」の単位を修得してください。

2年(3学期)	8	※(8~)			—	16	47	63	20	37
2年(4学期)	8	※(12~)			—	20	60	80	17	

2年終了時の修得単位数の基準は、合計80単位を目安とする。

<留意点> ① 2年次までの必修科目(専門科目)は必ず修得する。

② 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

3年(5学期)	8	4	4	4	—	20	75	95	15	29
3年(6学期)	8	4	4	4	—	20	89	109	14	

3年終了時の修得単位数の基準は、合計109単位を目安とする。

<留意点> 3年次までの必修科目(専門科目)は必ず修得する。

4年(7学期)	8	4	4	4	—	20	98	118	9	16
4年(8学期)	8	4	4	4	—	20	105	125	7	

(社会人を対象とする入学試験制度によって入学した学生)

	共通科目					計	専門科目 必修	合計	小計	
	基礎教育	人間力形成教育			キャリア形成教育				基礎教育・人間力形成教育 選択	合計
		人間形成	国際理解	社会生活		—				
卒業要件単位数		4	4	4		8	20	105	125	
1年(1学期)		※(2~)				4	6	16	22	43
1年(2学期)		※(4~)				8	12	31	21	
2年(3学期)		※(8~)				8	16	47	63	37
2年(4学期)		※(12~)				8	20	60	80	
3年(5学期)		4	4	4		8	20	75	95	29
3年(6学期)		4	4	4		8	20	89	109	
4年(7学期)		4	4	4		8	20	98	118	16
4年(8学期)		4	4	4		8	20	105	125	

1年終了時の修得単位数の基準は、合計43単位を目安とする。

<留意点> ① 1年次の必修科目(専門科目)は必ず修得する。

② 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

2年(3学期)		※(8~)				8	16	47	63	37
2年(4学期)		※(12~)				8	20	60	80	

2年終了時の修得単位数の基準は、合計80単位を目安とする。

<留意点> ① 2年次までの必修科目(専門科目)は必ず修得する。

② 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

3年(5学期)		4	4	4		8	20	75	95	29
3年(6学期)		4	4	4		8	20	89	109	

3年終了時の修得単位数の基準は、合計109単位を目安とする。

<留意点> 3年次までの必修科目(専門科目)は必ず修得する。

4年(7学期)		4	4	4		8	20	98	118	16
4年(8学期)		4	4	4		8	20	105	125	

2022年度以前入学生

	共通科目					専門科目	合計	小計		
	基礎教育 特別科目*	人間力形成教育			キャリア形成教育	計		必修	学期	年間
		人間形成	国際理解	社会生活						
卒業要件単位数	8	4	4	4	—	20	105	125		
1年(1学期)	4		—		—	4	14	18	18	
1年(2学期)	8		—		—	8	26	34	34	

1年終了時の修得単位数の基準は、合計34単位を目安とする。

<留意点> 1年次の必修科目(基礎教育、専門科目)は必ず修得する。

*在留区分が留学であり、大学が必要と認めた場合、「アカデミック日本語Ⅰ～Ⅳ」の単位を修得してください。

2年(3学期)	8		※(2～)		—	10	40	50	16
2年(4学期)	8		※(4～)		—	12	58	70	20

2年終了時の修得単位数の基準は、合計70単位を目安とする。

<留意点> ① 2年次までの必修科目(専門科目)は必ず修得する。

② 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

3年(5学期)	8		※(4～)		—	12	78	90	20
3年(6学期)	8		※(4～)		—	12	93	105	15

3年終了時の修得単位数の基準は、合計105単位を目安とする。

<留意点> ① 3年次までの必修科目(専門科目)は必ず修得する。

② 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

4年(7学期)	8		※(8～)		—	16	97	113	8
4年(8学期)	8	4	4	4	—	20	105	125	12

<留意点> 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

(社会人を対象とする入学試験制度によって入学した学生)

	共通科目					専門科目	合計	小計			
	基礎教育	人間力形成教育			キャリア形成教育	基礎教育・人間力形成教育		計	必修	学期	年間
		人間形成	国際理解	社会生活							
卒業要件単位数		4	4	4		8	20	105	125		
1年(1学期)			—			4	4	14	18	18	
1年(2学期)			—			8	8	26	34	34	
2年(3学期)			※(2～)			8	10	40	50	16	
2年(4学期)			※(4～)			8	12	58	70	20	
3年(5学期)			※(4～)			8	12	78	90	20	
3年(6学期)			※(4～)			8	12	93	105	15	
4年(7学期)			※(8～)			8	16	97	113	8	
4年(8学期)		4	4	4		8	20	105	125	12	

1年終了時の修得単位数の基準は、合計34単位を目安とする。

<留意点> 1年次の必修科目(専門科目)は必ず修得する。

2年(3学期)			※(2～)			8	10	40	50	16
2年(4学期)			※(4～)			8	12	58	70	20

2年終了時の修得単位数の基準は、合計70単位を目安とする。

<留意点> ① 2年次までの必修科目(専門科目)は必ず修得する。

② 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

3年(5学期)			※(4～)			8	12	78	90	20
3年(6学期)			※(4～)			8	12	93	105	15

3年終了時の修得単位数の基準は、合計105単位を目安とする。

<留意点> 3年次までの必修科目(専門科目)は必ず修得する。

4年(7学期)			※(8～)			8	16	97	113	8
4年(8学期)		4	4	4		8	20	105	125	12

<留意点> 選択必修科目(※印)は、各自の履修計画に従い、上表の()内の単位を目安として、履修単位数の上限の範囲内で修得することが望ましい。

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing notes.

10

教育課程表

I

共通事項(全学生共通)

10

教育課程表

授業科目区分	授業科目名称	単位数		配当年次	履修方法	卒業要件 単位数 (最低)			備考
		必修	選択			社会人*			
基礎教育	学修の基礎Ⅰ	2		1	基礎教育から 必修3単位を修得	8		-	※在留資格が「留学」の 学生は、大学が必要と 認めた場合、「アカデ ミック日本語Ⅰ～Ⅳ」 の単位を修得してくだ さい。
	学修の基礎Ⅱ	2		1					
	学修の基礎Ⅲ-a	2		1					
	学修の基礎Ⅲ-b (情報リテラシー)	2		1					
人間形成	人間存在の課題		2	1～4	人間力形成教育 人間形成から4単位を修得	4	4		
	社会生活と倫理		2	1～4					
	文学の世界		2	1～4					
	人類と文化		2	1～4					
	美とは何か		2	1～4					
	コミュニケーション論		2	1～4					
	心理学		2	1～4					
	からだと健康		2	1～4					
	日本人の生活意識		2	1～4					
	性格とは何か		2	1～4					
	生命と遺伝子		2	1～4					
	スポーツ科学講義A		2	1～4					
	スポーツ科学講義B		2	1～4					
	スポーツ科学演習A		2	1～4					
	スポーツ科学演習B		2	1～4					
	ボランティア講義		2	1～4					
人間形成ゼミナール		2	2～4						
国際理解	日本の歴史		2	1～4	人間力形成教育 国際理解から4単位を修得	4	20	4	20
	国際関係論		2	1～4					
	国際貢献論		2	1～4					
	民族と宗教		2	1～4					
	異文化コミュニケーション論		2	1～4					
	日本語と日本文化A		2	1～4					
	日本語と日本文化B		2	1～4					
	フランス語とフランス文化A		2	1～4					
	フランス語とフランス文化B		2	1～4					
	ドイツ語とドイツ文化A		2	1～4					
	ドイツ語とドイツ文化B		2	1～4					
	スペイン語とスペイン文化A		2	1～4					
	スペイン語とスペイン文化B		2	1～4					
	韓国語と韓国文化A		2	1～4					
	韓国語と韓国文化B		2	1～4					
	社会生活	法学		2					
日本国憲法			2	1～4					
経済のしくみ			2	1～4					
政治のしくみ			2	1～4					
自然環境論			2	1～4					
生活と安全			2	1～4					
行動科学			2	1～4					
データのまとめ方			2	1～4					
数理の世界			2	1～4					
身近な化学			2	1～4					
社会生活ゼミナール			2	2～4					
キャリア教育		キャリアプランニングⅠ		2	1	-	-	-	
	キャリアプランニングⅡ		2	2					
	キャリアプランニングⅢ		2	2					
	キャリアデザイン		4	3					
特別科目	アカデミック日本語Ⅰ		2	1	-	-	-		※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目
	アカデミック日本語Ⅱ		2	1					
	アカデミック日本語Ⅲ		2	1					
	アカデミック日本語Ⅳ		2	1					
共通科目合計					20				

* 社会人を対象とする入学試験制度によって入学した学生

授業科目区分			授業科目名称	単位数		配当年次	履修方法	卒業要件 単位数 (最低)					
				必修	選択								
基礎分野	科学的思考の 基盤・人間と 生活	科学人間	医療ホスピタリティ実習	1		1	基礎分野から必修10単位を修得	10					
			医療倫理・心理学	2		1							
		科学自然	生物学・化学	2		1							
			保健情報統計学	1		3							
		英語コミュニケーション	基礎英会話	1		1							
			発展英会話	1		1							
			歯学基礎英語	1		3							
			歯学臨床英語	1		3							
		専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	2					1	専門基礎分野から必修25単位を修得	25	
				生理学	2					1			
歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学		2		1								
	口腔生理・機能学		2		1								
疾病の成り立ち及び回復過程の促進	口腔組織・発生学		1		1								
	生化学・栄養生化学		2		1								
	病理学・口腔病理学		2		1								
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	微生物学・口腔微生物学		2		1								
	薬理学・歯科薬理学		2		1								
	口腔衛生学		2		2								
	公衆衛生学		2		1								
専門科目	歯科衛生士概論		衛生行政・介護福祉論	2		3	専門分野から必修61単位を修得	61					
		臨床医科学・多職種連携論	2		3								
	臨床歯科医学	口腔保健学概論	2		1								
		歯科保存学	2		2								
		歯周治療学	1		2								
		歯科補綴学	2		2								
		口腔外科・麻酔学	2		2								
		小児・矯正歯科学	2		2								
		高齢者・スペシャルニーズ歯科学	2		3								
	摂食嚥下リハビリテーション学	2		3									
歯科予防処置論	歯科医療安全実習	1		1									
	基礎歯科予防処置論	2		2									
	応用歯科予防処置論	2		2									
	基礎歯科予防処置実習	1		2									
	応用歯科予防処置実習	1		2									
	口腔保健管理学実習	1		4									
歯科保健指導論	基礎歯科保健指導論	2		2									
	応用歯科保健指導論	2		2									
	基礎歯科保健指導実習	1		2									
	応用歯科保健指導実習	1		2									
	摂食嚥下リハビリテーション実習	1		3									
	臨床歯科衛生活動実習	1		3									
歯科診療補助論	歯科臨床と材料の基礎	2		1									
	基礎歯科診療補助論	2		2									
	臨床歯科診療補助論	2		2									
	基礎歯科診療補助実習	1		2									
	臨床歯科診療補助実習	1		2									
	臨床検査・放射線学	2		3									
臨地実習 (臨床実習を含む。)	口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ	4		3									
	口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ	8		3									
	口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ	8		4									
総合科目	歯科衛生総合実習(OSCE)	1		3	総合科目から必修5単位を修得	5							
	総合口腔保健学特論	4		4									
卒業研究	卒業研究概論	1		3	卒業研究から必修4単位を修得	4							
	卒業研究	3		4									
専門科目合計							105						
合計卒業要件単位数(最低)							共通科目から20単位を修得 専門科目から105単位を修得	125					

授業科目区分	授業科目名称	単位数		配当年次	履修方法	卒業要件 単位数 (最低)			備考
		必修	選択			社会人*			
基礎教育	学修の基礎Ⅰ	2		1	基礎教育から 必修3単位を修得	8		-	※在留資格が「留学」の 学生は、大学が必要と 認めた場合、「アカデ ミック日本語Ⅰ～Ⅳ」 の単位を修得してくだ さい。
	学修の基礎Ⅱ	2		1					
	学修の基礎Ⅲ-a	2		1					
	学修の基礎Ⅲ-b (情報リテラシー)	2		1					
人間形成	人間存在の課題		2	1~4	人間力形成教育 人間形成から4単位を修得	4	4		
	社会生活と倫理		2	1~4					
	文学の世界		2	1~4					
	人類と文化		2	1~4					
	美とは何か		2	1~4					
	コミュニケーション論		2	1~4					
	心理学		2	1~4					
	からだと健康		2	1~4					
	日本人の生活意識		2	1~4					
	性格とは何か		2	1~4					
	生命と遺伝子		2	1~4					
	スポーツ科学講義A		2	1~4					
	スポーツ科学講義B		2	1~4					
	スポーツ科学演習A		2	1~4					
	スポーツ科学演習B		2	1~4					
	ボランティア講義		2	1~4					
人間形成ゼミナール		2	2~4						
国際理解	日本の歴史		2	1~4	人間力形成教育 国際理解から4単位を修得	4	20	4	20
	国際関係論		2	1~4					
	国際貢献論		2	1~4					
	民族と宗教		2	1~4					
	異文化コミュニケーション論		2	1~4					
	日本語と日本文化A		2	1~4					
	日本語と日本文化B		2	1~4					
	フランス語とフランス文化A		2	1~4					
	フランス語とフランス文化B		2	1~4					
	ドイツ語とドイツ文化A		2	1~4					
	ドイツ語とドイツ文化B		2	1~4					
	スペイン語とスペイン文化A		2	1~4					
	スペイン語とスペイン文化B		2	1~4					
	韓国語と韓国文化A		2	1~4					
	韓国語と韓国文化B		2	1~4					
	社会生活	法学		2					
日本国憲法			2	1~4					
経済のしくみ			2	1~4					
政治のしくみ			2	1~4					
自然環境論			2	1~4					
生活と安全			2	1~4					
行動科学			2	1~4					
データのまとめ方			2	1~4					
数理の世界			2	1~4					
身近な化学			2	1~4					
社会生活ゼミナール		2	2~4						
キャリア教育	キャリアプランニングⅠ		2	1	-	-	-	-	
	キャリアプランニングⅡ		2	2					
	キャリアプランニングⅢ		2	2					
	キャリアデザイン		4	3					
特別科目	アカデミック日本語Ⅰ		2	1	-	-	-	-	※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目
	アカデミック日本語Ⅱ		2	1					
	アカデミック日本語Ⅲ		2	1					
	アカデミック日本語Ⅳ		2	1					
共通科目合計					20				

* 社会人を対象とする入学試験制度によって入学した学生

授業科目区分			授業科目名称	単位数		配当年次	履修方法	卒業要件 単位数 (最低)		
				必修	選択					
基礎分野	科学的思考の 基盤・人間と 生活	科学人間	生命哲学	2		1	基礎分野から必修12単位を修得	12		
			医療心理学	2		1				
		科学自然	生物学	2		1				
			化学	2		1				
			英語コミュニケーション	歯学基礎英語	1					1
				歯学臨床英語	1					2
	専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	2		1		専門基礎分野から必修24単位を修得		24
			生理学	2		1				
		歯・口腔の 構造と機能	口腔解剖学	2		1				
			口腔生理・機能学	2		1				
		疾病の成り立ち及び 回復過程の促進	口腔組織・発生学	2		1				
			口腔病理・微生物学	2		2				
歯・口腔の健康と 予防に関わる人間と 社会の仕組み	生化学・栄養生化学	2		2						
	薬理学・歯科薬理学	2		2						
	口腔衛生学	2		2						
	公衆衛生学	2		1						
専門科目	臨床歯科医学	歯科衛生士概論	口腔保健学概論	2		1	専門分野から必修61単位を修得	105		
			臨床歯科医学	臨床検査・放射線学	2				3	
		歯科保存学		2		2				
		歯科補綴学		2		2				
		口腔外科・麻酔学		2		3				
		小児・矯正歯科学		2		2				
	高齢者・スペシャルニーズ歯科学	2			3					
	歯科予防処置論	摂食嚥下リハビリテーション学	2		3					
		歯科予防処置論	歯科予防処置論 I	2		2				
			歯科予防処置論 II	2		2				
			歯科予防処置実習 I	1		2				
			歯科予防処置実習 II	1		2				
臨床歯科衛生生活動論			2		3					
口腔保健管理学実習	1			3						
歯科保健指導論	歯科保健指導論	歯科保健指導論 I	2		2					
		歯科保健指導論 II	2		2					
		歯科保健指導実習 I	1		2					
		歯科保健指導実習 II	1		2					
		摂食嚥下リハビリテーション実習	1		3					
		歯科診療補助論	歯科診療補助論	歯科診療補助論 I	2		1			
歯科診療補助論 II	2				2					
歯科診療補助実習 I	1				1					
歯科診療補助実習 II	1				2					
歯科診療補助実習 III	1				2					
チーム歯科医療学実習 I	1				3					
チーム歯科医療学実習 II	1				3					
チーム歯科医療学実習 III	1				3					
総合演習	総合演習	口腔保健学臨床地実習 I	8		3					
		口腔保健学臨床地実習 II	8		3					
		口腔保健学臨床地実習 III	4		4					
卒業研究	卒業研究	歯科総合演習	4		4	総合演習から必修4単位を修得	4			
		卒業研究	4		4	卒業研究から必修4単位を修得	4			
専門科目合計							105			
合計卒業要件単位数 (最低)							共通科目から20単位を修得 専門科目から105単位を修得	125		

II

編入学生特記事項

編入学生を対象とした項目です。

編入学生特記事項

1 修業年限と在学期間

修業年限とは、本学の教育課程を修了するために必要な期間で、3年次に編入学した者については通算2年（4学期）と定めています。また、在学期間とは、本学に在籍することができる期間で、上限を通算4年（8学期）と定めています。

修業年限 通算2年（4学期）

在学期間 通算4年（8学期）以内

2 2年間の学修計画

編入学生は、3年次から本学での学修を開始しますが、卒業までの2年間で、個々の興味に応じた体系的な履修を行うためには、既修得単位の取扱いや卒業要件はもちろんのこと、履修上の規則等を十分理解し、綿密な学修計画を立てることが必要です。

3 既修得単位の認定

[1] 単位認定

編入学前の短期大学等において修得した単位は、当該短期大学等における学修を尊重し、62単位を本学において修得したものと認定します。

[2] 個別認定(α)

前述の [1] で認定される62単位の他に、編入学前の短期大学等において単位を修得した授業科目で、その内容が本学で開設する授業科目に相当し、かつ当該授業科目の単位として認定することが教育上有益と認められる場合は、8単位を上限として単位を追加認定します。

ただし、個別認定する単位数は [1] で認定する62単位と合わせて、編入学前の短期大学等において修得した総単位数を超えないものとします。

個別認定申請方法

対 象	入学前（2024年度編入学生）
申 請 期 間	3月28日（木）～4月5日（金）
申 請 書 類	① 単位認定申請書兼単位認定通知書（本学所定様式） ② 認定申請する科目の授業内容を明らかにする文書で、次のa又はbのいずれかのもの a 出身校が発行した授業内容の証明書 b シラバス（写） 注意1 ②について、英語以外の外国語で記載されている場合は、日本語又は英語の訳文を添付してください。 注意2 外国の短期大学等で修得した単位の認定を希望する場合及び②のa又はbのいずれの書類も用意できない場合は、事前に学事課（教務担当）で相談してください。
所定様式配布及び申請書類提出先	学事課（教務担当）
個別認定発表	4月12日（金） 学事課（教務担当）で単位認定通知書を直接本人へ交付します。

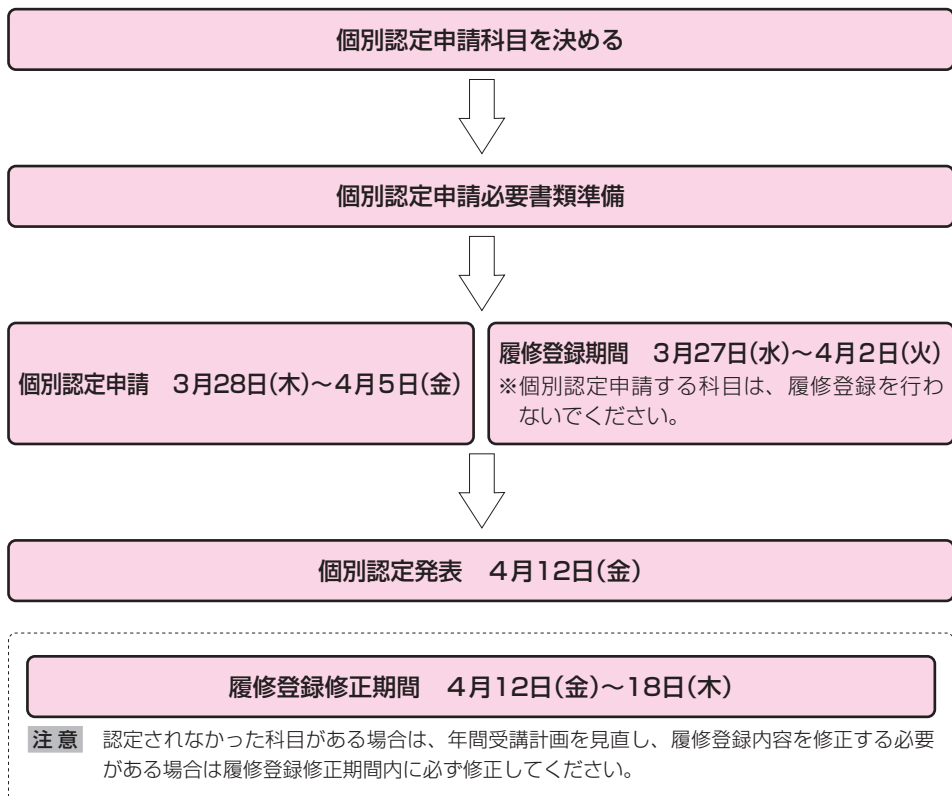
注意 外国の短期大学等で修得した科目は、単位制によらない場合や、単位の換算基準が異なる場合がありますので、本学所定の様式により総授業時間数等を申告してください。（成績証明書等に時間数の記載がない場合は、出身校に問い合わせの上、申告してください。）

個別認定申請と履修登録

個別認定申請と履修登録手続の流れは、次のとおりです。

年間の受講計画を立てる際は、**申請する科目がすべて認定されることを前提に検討し、履修登録は行わないでください。**

なお、履修登録修正期間は、授業開始から数日が経過しており、学修に支障をきたすことがあるので、認定申請に当たっては、十分に検討し、安易な申請は慎んでください。



4 卒業要件

3年次に編入学した者は、本学において2年（通算4学期）以上在学（休学期間を除く。）し、学則に定められた卒業所要単位を修得した場合に卒業が認定されます。

卒業に必要な単位数（最低）は、次のとおりです。

授 業 科 目 区 分	卒業に必要な単位数	編入学時に認定される単位数	編入学後に修得が必要な単位数
共通科目	20	8	12
専門科目	105	54 (+ α)	51 (- α)
合 計	125	62 (+ α)	63 (- α)

注意 α は個別認定の単位数で上限は8単位。ただし、62単位と合わせて編入学前に修得した総単位数を超えてはならない。

参照→具体的な授業科目名称及び必修・選択必修・選択の内訳等→「教育課程表」

5 その他

[1] クラス指定

語学、実習等授業科目の性質から、適正人数（少人数等）で授業を行うためにクラスが指定される科目があります。原則として、指定されたクラス以外での履修は認められません。クラス発表等、詳細については、編入学生オリエンテーションで説明します。

[2] 修得(認定)済科目の履修

編入学時に個別に認定された科目及び編入学後に単位を修得又は認定された科目は、履修することができません。

6 教育課程表(編入学生用)

授業科目区分	授業科目名称	単位数		配当年次	編入学時に 認定される単位数	編入学後に修得が 必要な単位数 (最低)	備考				
		必修	選択								
基礎教育	学修の基礎Ⅰ	2		1	8	-					
	学修の基礎Ⅱ	2		1							
	学修の基礎Ⅲ -a	2		1							
	学修の基礎Ⅲ -b (情報リテラシー)	2		1							
人間形成	人間存在の課題		2	1~4	-	4					
	社会生活と倫理		2	1~4							
	文学の世界		2	1~4							
	人類と文化		2	1~4							
	美とは何か		2	1~4							
	コミュニケーション論		2	1~4							
	心理学		2	1~4							
	からだと健康		2	1~4							
	日本人の生活意識		2	1~4							
	性格とは何か		2	1~4							
	生命と遺伝子		2	1~4							
	スポーツ科学講義A		2	1~4							
	スポーツ科学講義B		2	1~4							
	スポーツ科学演習A		2	1~4							
	スポーツ科学演習B		2	1~4							
	ボランティア講義		2	1~4							
	人間形成ゼミナール		2	2~4							
	国際理解	日本の歴史		2				1~4	-	4	※ 留学生選択科目
		国際関係論		2				1~4			
		国際貢献論		2				1~4			
民族と宗教			2	1~4							
異文化コミュニケーション論			2	1~4							
日本語と日本文化A			2	1~4							
日本語と日本文化B			2	1~4							
フランス語とフランス文化A			2	1~4							
フランス語とフランス文化B			2	1~4							
ドイツ語とドイツ文化A			2	1~4							
ドイツ語とドイツ文化B			2	1~4							
スペイン語とスペイン文化A			2	1~4							
スペイン語とスペイン文化B			2	1~4							
韓国語と韓国文化A			2	1~4							
韓国語と韓国文化B			2	1~4							
中国語と中国文化A			2	1~4							
中国語と中国文化B			2	1~4							
英語文化研究A			2	1~4							
英語文化研究B			2	1~4							
国際理解ゼミナール			2	2~4							
社会生活	法学		2	1~4	-	4					
	日本国憲法		2	1~4							
	経済のしくみ		2	1~4							
	政治のしくみ		2	1~4							
	自然環境論		2	1~4							
	生活と安全		2	1~4							
	行動科学		2	1~4							
	データのまとめ方		2	1~4							
	数理の世界		2	1~4							
	身近な化学		2	1~4							
	社会生活ゼミナール		2	2~4							
	キャリア教育	キャリアプランニングⅠ		2				1	-	-	
キャリアプランニングⅡ			2	2							
キャリアプランニングⅢ			2	2							
キャリアデザイン			4	3							
特別科目	アカデミック日本語Ⅰ		2	1	-	-	※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目 ※ 留学生選択科目				
	アカデミック日本語Ⅱ		2	1							
	アカデミック日本語Ⅲ		2	1							
	アカデミック日本語Ⅳ		2	1							
共通科目合計					8	12					

授業科目区分			授業科目名称	単位数		配当年次	編入学時に認定される単位数	編入学後に修得が必要な単位数(最低)			
				必修	選択						
基礎分野	科学 ・人間と生活	科学 人間	生命哲学	2		1	8	4			
			医療心理学	2		1					
		科学 自然	生物学	2		1					
			化学	2		1					
		英語コミュニケーション	歯学基礎英語	1		1					
			歯学臨床英語	1		2					
			英会話Ⅰ	1		2					
			英会話Ⅱ	1		3					
		専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学	2				1	18	6
				生理学	2				1		
歯・口腔の構造と機能	口腔解剖学		2		1						
	口腔生理・機能学		2		1						
	口腔組織・発生学		2		1						
疾病の成り立ち及び回復過程の促進	口腔病理・微生物学		2		2						
	生化学・栄養生化学		2		2						
	薬理学・歯科薬理学		2		2						
歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	口腔衛生学		2		2						
	公衆衛生学		2		1						
	介護福祉	2		3							
	臨床医科学	2		3							
専門科目	専門分野	歯科衛生士概論	2		1	28	33				
		臨床歯科医学	臨床検査・放射線学	2				3			
			歯科保存学	2				2			
			歯科補綴学	2				2			
			口腔外科・麻酔学	2				3			
			小児・矯正歯科学	2				2			
			高齢者・スペシャルニーズ歯科学	2				3			
			摂食嚥下リハビリテーション学	2				3			
			歯科予防処置論Ⅰ	2				2			
		歯科予防処置論Ⅱ	2		2						
		歯科予防処置論	歯科予防処置実習Ⅰ	1				2			
			歯科予防処置実習Ⅱ	1				2			
			臨床歯科衛生活動論	2				3			
			口腔保健管理学実習	1				3			
			歯科保健指導論Ⅰ	2				2			
			歯科保健指導論Ⅱ	2				2			
		歯科保健指導論	歯科保健指導実習Ⅰ	1				2			
			歯科保健指導実習Ⅱ	1				2			
			摂食嚥下リハビリテーション実習	1				3			
			歯科診療補助論Ⅰ	2				1			
			歯科診療補助論Ⅱ	2				2			
		歯科診療補助論	歯科診療補助実習Ⅰ	1				1			
			歯科診療補助実習Ⅱ	1				2			
			歯科診療補助実習Ⅲ	1				2			
			チーム歯科医療学実習Ⅰ	1				3			
			チーム歯科医療学実習Ⅱ	1				3			
			臨地実習(臨床実習を含む。)	口腔保健学臨床臨地実習Ⅰ	8				3		
		口腔保健学臨床臨地実習Ⅱ		8				3			
		口腔保健学臨床臨地実習Ⅲ		4				4			
		総合演習	歯科総合演習	4				4	—	4	
卒業研究	卒業研究	4		4	—	4					
専門科目合計							54 (+α)	51 (-α)			
合計卒業要件単位数(最低)							62 (+α)	63 (-α)			

※ 網掛けされている授業科目は、編入学時に認定される単位認定科目となります。

個別認定(α)	<p>単位認定(62単位)の他に、編入学前の短期大学等において単位を修得した授業科目で、その内容が本学で開設する授業科目に相当し、かつ当該授業科目の単位として認定することが教育上有益と認められる場合は、8単位を上限として単位を追加認定します。</p> <p>ただし、個別認定する単位数は、単位認定(62単位)と合わせて編入学前の短期大学等において修得した総単位数を超えないものとします。</p>
---------	---

時 間 割 (控)

時限・開講期	月			火			水			木			金			土		
	授 業 コ ー ド	授 業 科 目 名 (単 位 数)	担 当 教 員 名 (教 室)	授 業 コ ー ド	授 業 科 目 名 (単 位 数)	担 当 教 員 名 (教 室)	授 業 コ ー ド	授 業 科 目 名 (単 位 数)	担 当 教 員 名 (教 室)	授 業 コ ー ド	授 業 科 目 名 (単 位 数)	担 当 教 員 名 (教 室)	授 業 コ ー ド	授 業 科 目 名 (単 位 数)	担 当 教 員 名 (教 室)	授 業 コ ー ド	授 業 科 目 名 (単 位 数)	担 当 教 員 名 (教 室)
1 前学期 ・通年 9:00 } 後学期 ・通年 10:30		()			()			()			()			()			()	
		()			()			()			()			()			()	
2 前学期 ・通年 10:40 } 後学期 ・通年 12:10		()			()			()			()			()			()	
		()			()			()			()			()			()	
3 前学期 ・通年 13:00 } 後学期 ・通年 14:30		()			()			()			()			()			()	
		()			()			()			()			()			()	
4 前学期 ・通年 14:40 } 後学期 ・通年 16:10		()			()			()			()			()			()	
		()			()			()			()			()			()	
5 前学期 ・通年 16:20 } 後学期 ・通年 17:50		()			()			()			()			()			()	
		()			()			()			()			()			()	

記入例1：必修（共通科目）

(200)	学修の基礎 I	明海 太郎
	(2)	2101

※必修科目の場合は、授業コードに丸を付してください。

記入例2：選択必修（共通科目）

1001	政治のしくみ	浦安 花子
	(2)	2201

- 1 前年度までに修得した単位数を「A 修得済単位数」欄に記入してください。
- 2 今年度履修する「B 必修（共通科目）」、「C 必修（専門科目）」、「D 選択必修・選択（共通）」の履修単位数を記入してください。
- 3 上記B、C、Dを学期ごとに合計し、「E 履修単位数」欄に記入してください。
- 4 「A 修得済単位数」と「E 履修中単位数」を合計し、「F 合計単位数」欄に記入してください。

A 修得済単位数	B 必修（共通科目）	C 必修（専門科目）	D 選択必修・選択（共通）
	前学期	前学期	前学期
	後学期	後学期	後学期

↑
B+C+D

E 履修単位数（※1）
前学期
後学期

↑
A+E

F 合計単位数（※2）

※2 参考

合計単位数の学修状況については、「履修の手引」の「年次（学期）別基準単位数」を確認し、学修計画を立てる際の参考にしてください。

- ※1 注意事項
- ・履修単位数を算出する際、通年科目については単位数の1/2を前学期及び後学期にそれぞれ算入してください。
 - 例：4単位の通年科目 → 2単位（前学期）、2単位（後学期）
 - ・履修単位数の上限は学年により異なります。

1年生：各学期22単位、2年生：各学期24単位、3年生：各学期26単位、4年生：各学期28単位

教科書の購入について

「シラバス」、「授業時間割」等で授業科目名、担当教員、教科書名をよく確認し、また、授業時における担当教員からの指示に従い、各自必ず販売期間内に購入してください。



<教科書販売期間> 3月28日(木)～4月3日(水) 10:00～15:00
4月4日(木)～4月19日(金) 10:00～16:00
〔土曜日及び日曜日除く。〕

<販売会場> 30周年記念館1階チューデントホール

※別途、明海ショップ教科書販売WebサイトにてWeb販売も行う予定です。
※教科書販売の詳細については、丸善明海ショップへお問い合わせください。

2024年度 履修の手引

保健医療学部

2024年4月発行

編 集 明海大学浦安キャンパス学務部
学事課（教務担当）

発 行 明海大学
〒279-8550
千葉県浦安市明海1丁目
TEL (047) 350-4993 (直通)
<https://www.meikai.ac.jp>



<https://www.meikai.ac.jp>